

# 奈良文化財研究所から開示された 年輪年代関連データの評価

2025年度樹木年輪研究会

2025年11月16日

日本古代史ネットワーク 丸地三郎・清水徹朗

発表者:丸地

## 日本古代史ネットワーク(古代史ネットと略称)の紹介

- 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所を「奈文研」と略称表記します。
- 日本古代史ネットワークを「略称:古代史ネット」と略称表記します。
  - 古代史解明をめざす民間の任意団体 2020年10月開設 参加者 172名(2025・09)
- 情報公開請求と裁判の理由
  - 奈文研の光谷氏が科学的な年輪年代法により古代の遺跡・遺物の年代を計測し発表を行った。
  - 発表した年代は、従来の考古学者の推定や文献資料と異なるケースが多くあった。
  - 考古学者達は、奈文研の発表を信じ、古代史の年代が古い方へ変更した。
  - 奈文研・光谷氏の発表には、科学的な基礎データが無く、民間の古代史研究者達が疑問の声を上げた。
  - 疑問の声はあったが、奈文研・光谷氏は、情報開示を拒絶。
- 情報公開請求により奈文研の年輪年代データ公開
  - 2021年7月 古代史ネットより奈文研に、「情報公開請求書」を提出 → 拒絶
  - 2022年1月 古代史ネットは、東京地方裁判所へ提訴
  - 2025年1月 一部勝訴の結審
    - 判決で岡田裁判長は「**多くの研究者が科学的見地から検証を加えることは、学問的な発展に不可欠**」と指摘した。
  - 2025年5月 奈文研が提訴に掛かる情報を開示
  - 2025年6月 古代史ネットは、奈文研の開示情報をネット上に公開

# 古代史ネットの訴訟目的

## 目的：

- 公開された年輪年代の情報を公開し、**追加検証を可能とすること。**

## 請求したデータ（追加検証を念頭にした資料・データ）

AAA：年輪年代法の「ものさし」となる暦年標準パターン

- 5件について
  - 全域の数値データ
  - 暦年標準パターン作成に用いられた試料の原木に関する下記のデータ
    - 各試料の年輪巾を示す画像データ
    - 年輪巾測定数値データ
    - そのグラフデータ

BBB：年代測定した事例について

- 7件の事例につき
  - 対象となった試料の木材について
    - 各試料の年輪巾を示す画像データ
    - 年輪巾測定数値データ
    - そのグラフデータ
  - 適用した暦年用準パターン関連
    - 名称
    - 全域の数値データ
    - グラフデータ

## 【年輪年代法】に関する法人文書開示請求書

AAA：奈良文化財研究所において研究・発表されてきました年輪年代法の暦年標準パターンについて、下記のものにつき、各々の暦年標準パターンの全域の数値データ及び、個々のパターン作成の基となった試料の年輪幅を示す画像データ、年輪幅測定数値データとそのグラフデータ。

- 奈良国立文化財研究所(1990)『年輪に歴史を読む—日本における古年輪学の成立—』同朋舎出版、97頁の「図V—2 6組のヒノキの暦年標準パターン」の中で示された「Dパターン(AD512～AD1322)」と、この暦年標準パターン作成の試料である広島草戸千軒町遺跡出土品12点(折敷9点、曲物3点(同書73頁参照)、及び京都鳥羽離宮跡出土品6点(井戸枅材5、角材1点)(同書74頁参照)
- 同上の「Eパターン(BC37～AD838)」と、この暦年標準パターン作成の試料である奈良平城宮跡出土品22点(柱根2点、礎板類3点、曲物類12点、木皿1点、井戸枅材4点)(同書76頁参照)。
- 同上の「Fパターン(BC317～AD258)」と、この暦年標準パターン作成の試料である7か所の遺跡からの出土品11点(同書78頁参照)。

# 裁判の結果開示請求データの所在

(被告準備書面10 別紙)

## 【年輪年代法】に関する法人文書開示請求書で請求した情報一覧表

記号の意味 △:残存するものが多い。▲:一部残存する。×:存在しない。

			試料							暦年標準パターン				
			画像データ		数値データ		グラフデータ			数値データ		グラフデータ		
			紙	電子	紙	電子	紙・数値	紙グラフ	電子	紙	電子	紙・数値	紙グラフ	電子
A A A	1	Dパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○			
	2	Eパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○			
	3	Fパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○			
	4	Aパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○			
	5	木曾ヒノキ	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○			
B B B	1	正倉院25号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	正倉院28号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	正倉院38号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	法隆寺	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×
	5	池上曽根	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×
	6	勝山池	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×
	7	纏向石塚	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×

- ・ 試料の画像データは一切保管されていなかった。

# 請求した情報と開示された情報

			請求 件数	開示データ点数				
				試料			暦年標準パターン	
		略称	試料点数	画像 データ	数値 データ	グラフ データ	数値	グラフ データ
AAA	1	D	18	×	22	×	1	
	2	E	22	×	22	×	1	
	3	F	11	×	11	×	1	
	4	A	60(63)	×	63	×	1	
	5	木曽ヒノキ	－	×	47	×	1	
	6	埋木15点	－	×	15	×	1	×
	7	補足	－	×	15(11本重複)	×	1	×
合計			171		184		7	
BBB	1	正倉院25号	16	×	×	×	×	×
	2	正倉院28号	16	×	×	×	×	×
	3	正倉院38号	35	×	×	×	×	×
	4	法隆寺	1	×	1	×	1	×
	5	池上曽根	5	×	5	×	1	×
	6	勝山池	1	×	1	×	1	×
	7	纏向石塚	1	×	1	×	1	×
合計			75		8		4(重複)	
総 合 計			246		192		7	

E  
補足  
補足  
E

奈文研よりDVDで送られたデータは、6月早々に日本古代史ネットワークのHPで開示されました。


## 裁判の結果とデータ開示から判明したこと

- 裁判の中で明確になったこと
  - 写真・画像データは、保存されていなかった。(現地訪問と奈文研の所員に確認)
    - 従って、年輪データ自体と対象物を結びつける材料が無く、正確な再確認の方法は、無い。
  - コンピュータデータ以外の追検証に必要なグラフなどの書面データが全く整理されておらず、保存は限定的であった。
    - 控訴審で明らかにされたことは、研究者の光谷氏からの引継ぎは全くされていなかった。
      - ガイドラインにより基礎試料を保存しておくことが望ましかったとしても基礎試料が業務状必要なものとして、実際に利用又は保存されていたものとは認められない。
- データ開示によって明らかになったこと
  - 暦年標準パターンでは、「発表されたことのない」ものが存在し、使用されていた。
    - 池上曽根遺跡 : 「補足」暦年標準パターン(紀元前447年～257年) が適用
    - 勝山古墳板材 : 同上
  - 発表されていない暦年標準パターンを適用していたことは、暦年標準パターンが基準値(ものさし)である意味から、極めて不適切である。



# 開示データをネット上に公開

home



● サイト内検索

のページ

Menu

ト お知らせ

ト スケジュール

ト 年輪年代法訴訟/情報公開請求

ト 年輪年代測定法に関するデータ公開 ★New!

ト 古代史を解明する会

ト 古代史論文

ト 特別保存論文 (季刊「古代史ネット」代替)

ト 講演会 予定/記録(動画)

ト 新着ニュース ★New!


ト 組織・会則・活動方針

ト 入会のご案内

ト リンク・資料となるサイト/サービス

ト 古代遺跡★再発見 ★New!

ト ● サイト内検索 ★New!



日本古代史ネットワーク

最終更新日  
2025/07/14

年輪年代測定法に関するデータ公開

目次

1. はじめに

2. 解析ソフト *Past* の入手方法

3. 形式の違うサンプルデータの紹介

4. 開示された標準曲線パターンとその構築データ

○ 暦年標準Aパターン (1009年～1984年)

○ 暦年標準Dパターン (512年～1322年)

○ 暦年標準Eパターン (紀元前37年～838年)

○ 暦年標準Fパターン (紀元前317年～257年)

○ 木曾ヒノキ暦年標準パターン (紀元前705年～2005年)

○ 埋木15点年輪パターン (紀元前912年～紀元前94年)

○ 「補足」暦年標準パターン (紀元前447年～257年)

5. 開示された年代測定データ (試料年輪データと暦年標準パターン名称)

6. 年輪検証の意見交換募集

7. 「年輪検証の意見交換コーナー」のページ

はじめに

開示命令判決文の理由

2025年1月23日の判決文は、開示の理由を次のように記しています。

「被告作成に係る暦年標準パターンやこれを用いた木材の年代測定結果につき、多くの研究者が科学的見地から検証を加えることは、学問的な発展にとって不可欠な過程であって(甲16参照)、仮にこれによって被告における調査研究に係る事務の遂行に影響があったと

ネット閲覧者の複数の方が解析を試み、投稿した。  
その結果を見ると、この開示データの年代解析は適切に行えるものであることが判明した。

日本古代史ネットワーク

最終更新日  
2025/09/15

年輪検証の意見交換コーナー

当ページは「年輪年代測定法に関するデータ公開」のページを踏まえての意見交換のためのものです。

年輪年代法のデータそのもの、解析ソフト *Past* の入手方法などについては、

「年輪年代測定法に関するデータ公開」のページ

● 目次を表示/非表示

をご覧ください。

運用ルールについて

奈文研からの公開年輪データを検証してみでのコメントを募集いたします。

・ コメントはメールにて題名を「検証に関するコメント」としてお願いいたします。

○ 送信先: [nenrin@nihonkodaishi.net](mailto:nenrin@nihonkodaishi.net)

・ コメント者のお名前、メールアドレスは表示せず、「発言1」「発言2」...となります。

・ コメントに対する意見は、コメント先番号付でメール頂ければ、「発言1-1」「発言1-2」...といたします。

・ 中傷・誹謗となるコメント、意見は掲載いたしません。

年輪検証の意見交換

スレッドへのダイレクト・ジャンプ

発言1～5 (2025/06/13～06/29)

発言6 (2025/06/29)

発言7 (2025/07/08)

発言8 (2025/08/07)

発言9 (2025/08/15)

発言10 (2025/09/12)

発言11 (2025/09/12)

発言12 (2025/09/12)

▼ コメント

発言1: (2025/06/13)

- 開示データを複数のネット閲覧者に検討して頂いた結果、対象物の年輪巾データと暦年標準パターンと対比して測定された年代は、正しいとの結果を得た。
- しかし、疑問があり、開示されたデータが、開示請求したデータであるのか確認を行った。
  - 従来は、数値データが開示されなかった為、検証を行うことが、全くできなかった。
  - しかし、書籍・雑誌記事中に、年輪巾と暦年標準パターンが、図(グラフ)として開示された部分がある。
  - グラフは、元の数値から作成されたもので、開示されたデータが元の数値であったならば、それから作成されたグラフは、一致する筈。
    - 従って、図(グラフ)と、数値データから作成したグラフとを比較・確認の作業を行った。



・ 書籍・雑誌論文中に存在する図(グラフ)

1. ヒノキの暦年標準パターンA について

「ヒノキの現生木による1009年から1984年までの暦年標準パターン」 グラフは全域を10枚に分け掲載

- ・ 奈良文化財研究所学報第48(1990)「年輪に歴史を読む」

2. 「ヒノキの暦年標準パターングラフと法隆寺五重塔心柱パターングラフ」

- ・ 『日本の美術』421号「年輪年代法と文化財」(2001)

3. 纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査

- ・ 纏向石塚「ヒノキ暦年標準パターン(太線)と板材の年輪パターングラフ(細線)」
- ・ 『大和・纏向遺跡』石野博文編 「図107纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査」

4. 勝山池出土板材の年輪年代調査結果

- ・ 「ヒノキ暦年標準パターン(太線)と板材の年輪パターングラフ(細線)」
- ・ 『大和・纏向遺跡』石野博文編 「図106勝山池出土板材の年輪年代調査結果」

5. 法隆寺五重塔雲斗(くもと)の年輪年代測定基準パターン(2007年)

- ・ 「年輪年代法による法隆寺西院伽藍の総合的年代調査」 『仏教芸術』

6. 東大寺法華堂通肘木(とおしひじき)の年輪年代測定基準パターン(2012年)

- ・ 「東大寺法華堂(正堂)ならびに八角二重壇の年輪年代調査」 『仏教芸術』生寺五重塔心柱の年輪年代測定基準パターン(2001年)
- ・ 「年輪年代法と文化財」『日本の美術』

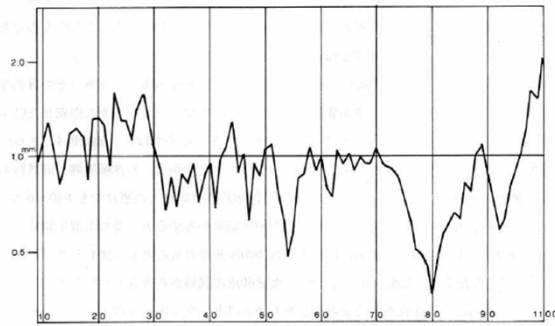
7. 室生寺五重塔心柱の年輪年代測定基準パターン(2001年)

- ・ 光谷拓実「年輪年代法と文化財」『日本の美術』421、2001.6 p.1～98

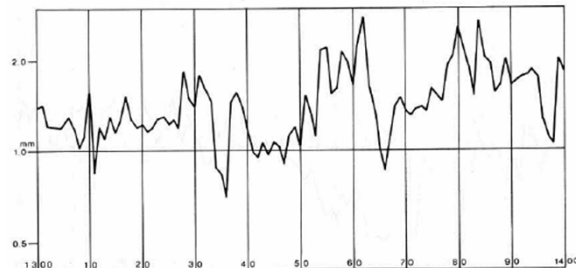
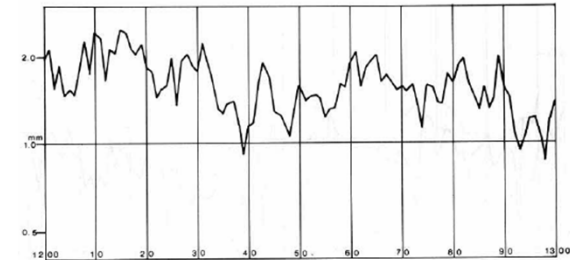
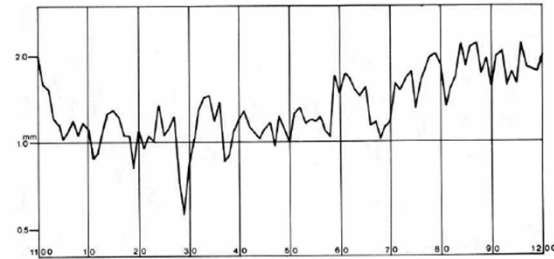
- ・ 2/5/6/7のグラフ表示は、新井宏氏の調査報告のものを借用

# 検証作業 ① ヒノキの暦年標準パターンA について

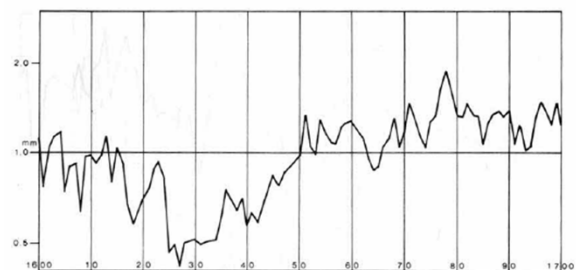
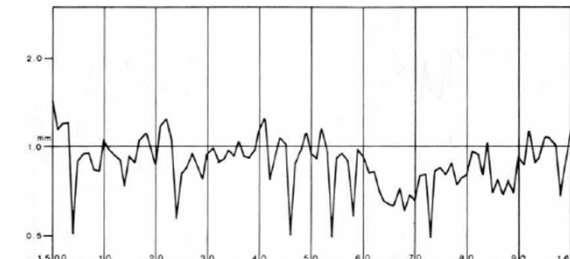
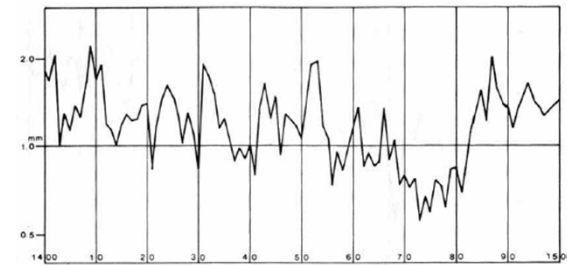
- 「年輪に歴史を読む」の10枚グラフを表記する。



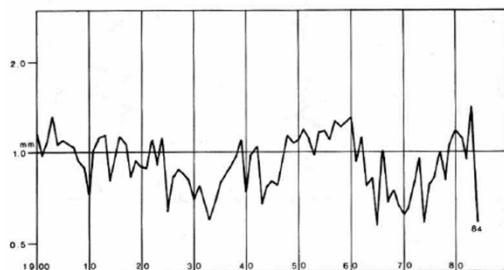
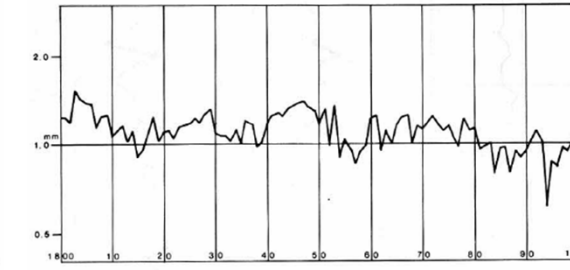
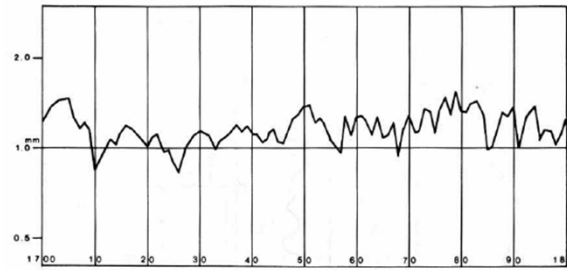
図Ⅳ-1 ヒノキの現生木による1009年から1100年までの暦年標準パターングラフ



図Ⅳ-2 ヒノキの現生木による1100年から1400年までの暦年標準パターングラフ

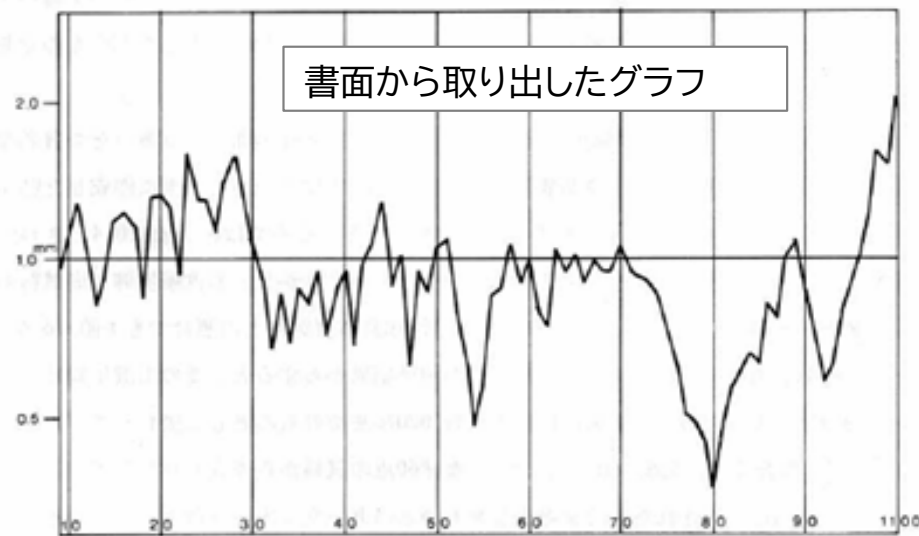


図Ⅳ-3 ヒノキの現生木による1400年から1700年までの暦年標準パターングラフ



図Ⅳ-4 ヒノキの現生木による1700年から1984年までの暦年標準パターングラフ

10枚で1009年から1984年までの全領域のグラフとなる。

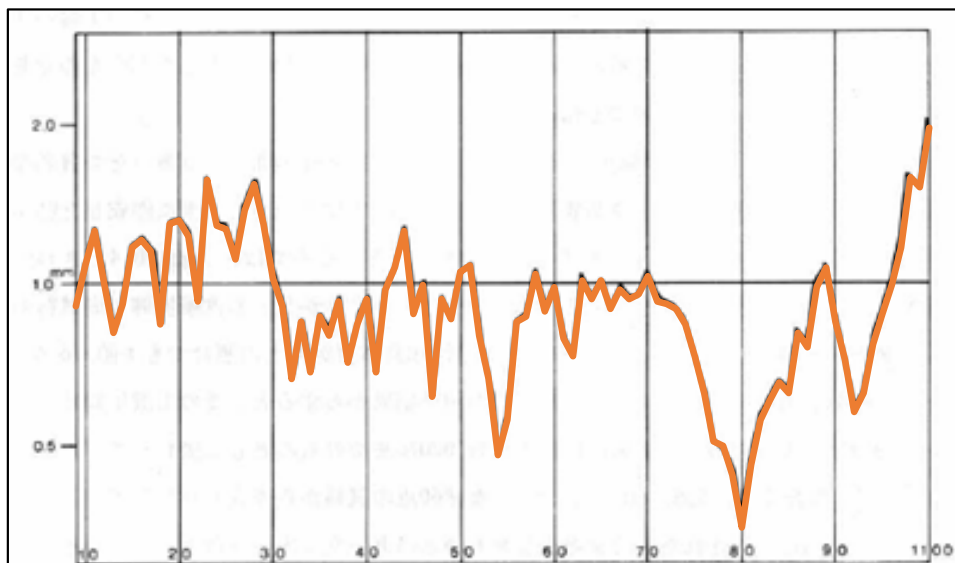


図IV-1 ヒノキの現生木による1009年から1100年までの暦年標準パターングラフ

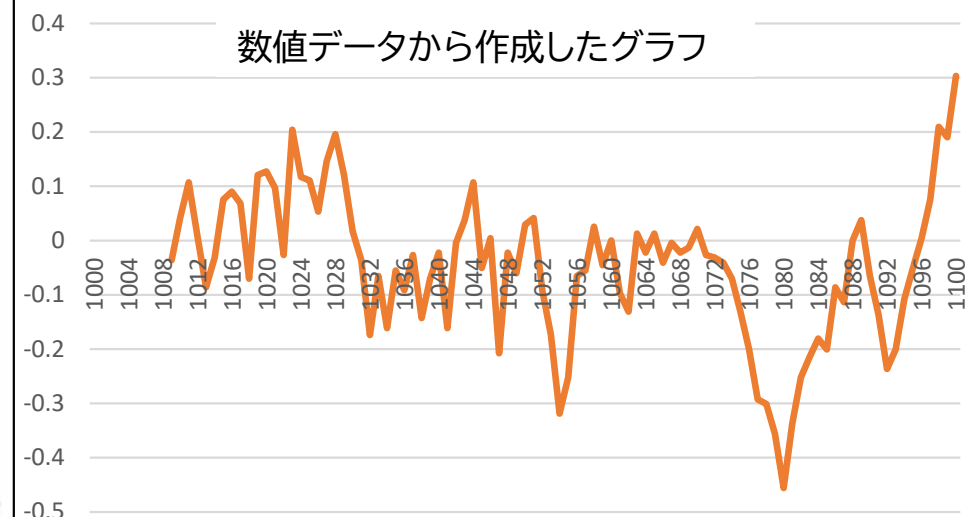
### 「書面のグラフと数値データから作成したグラフを対比」

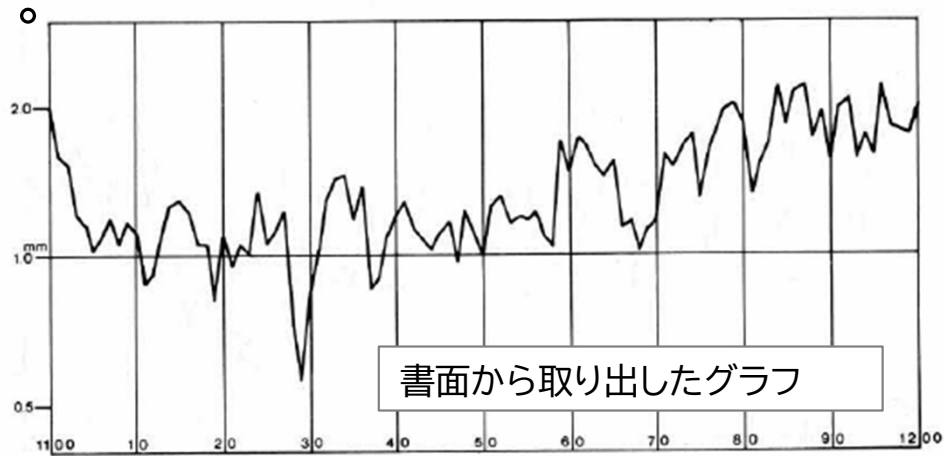
- 数値データから対数計算した数値を作成。その数値を使い、折れ線グラフを作成。(Excel上で作成)
- 書面のグラフに、数値データから作成した折れ線グラフを図上で重ねた。
  - 書面からのコピーした関係上、「歪」が発生した可能性もある。
- このグラフに関しては、ほぼ一致したと判断。
  - グラフ比較上、方法は合っていると判断。

• 1009年～1100年



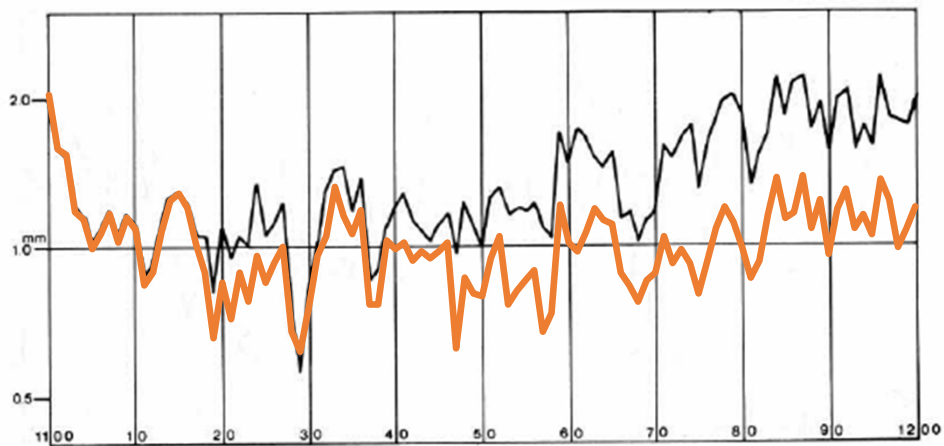
図IV-1 ヒノキの現生木による1009年から1100年までの暦年標準パターングラフ



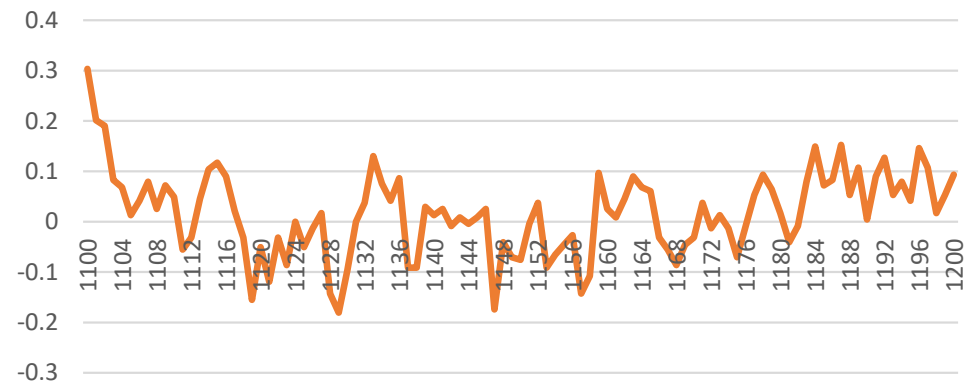


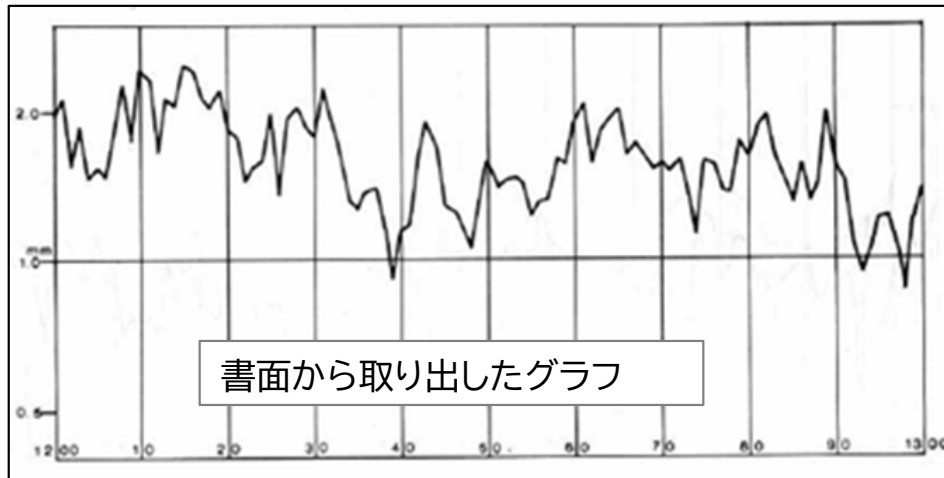
- 1/10と同様の作業を行いグラフを重ね。
- 結果、途中からグラフの形状が一致しない現象が発生。

• 1100年～1200年



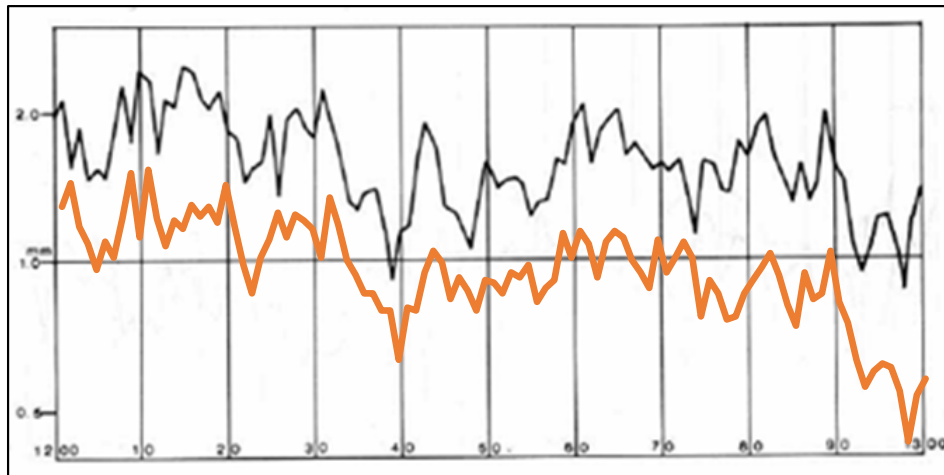
数値データから作成したグラフ



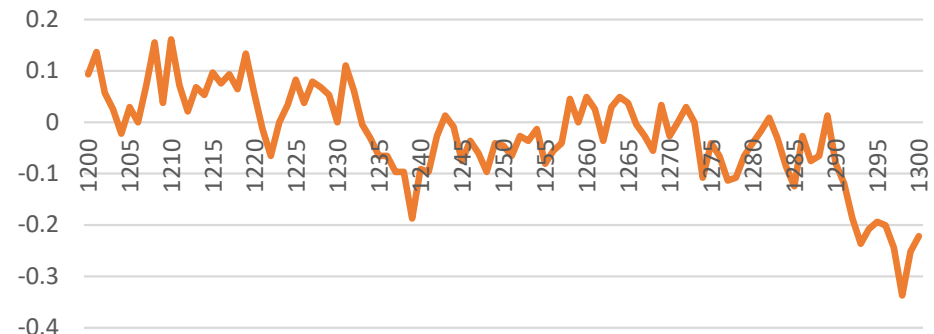


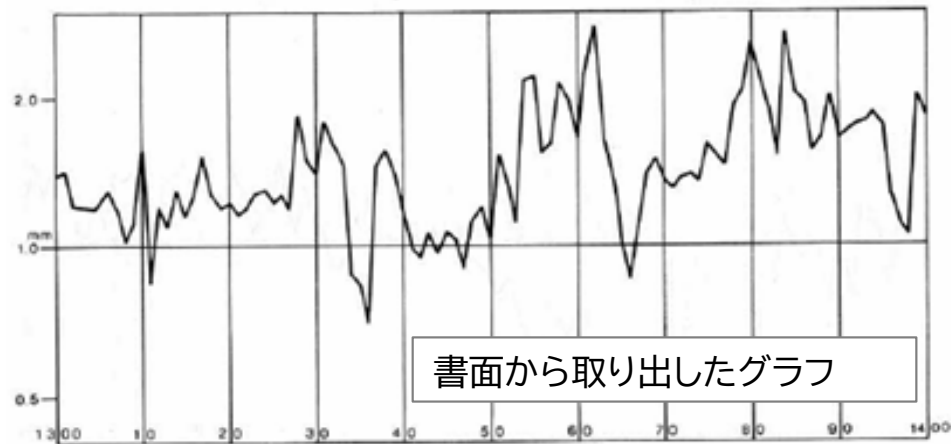
- 3/10についても同様の作業を実施
- グラフは重ならない。

• 1200年～1300年



数値データから作成したグラフ

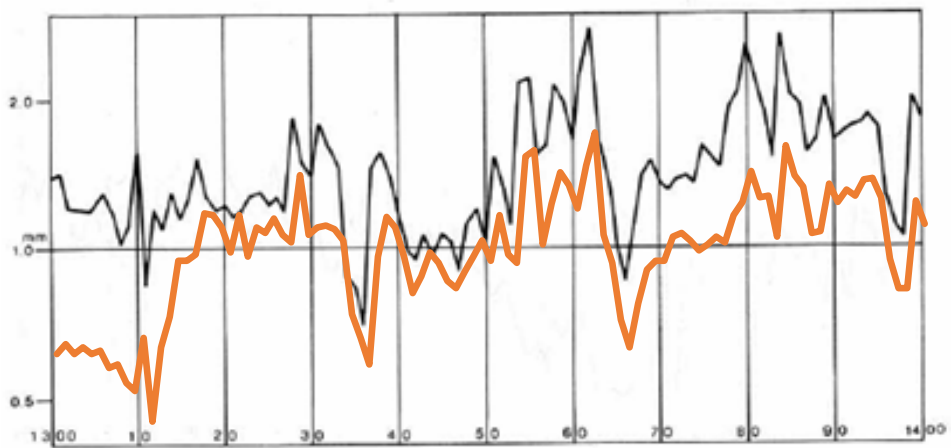




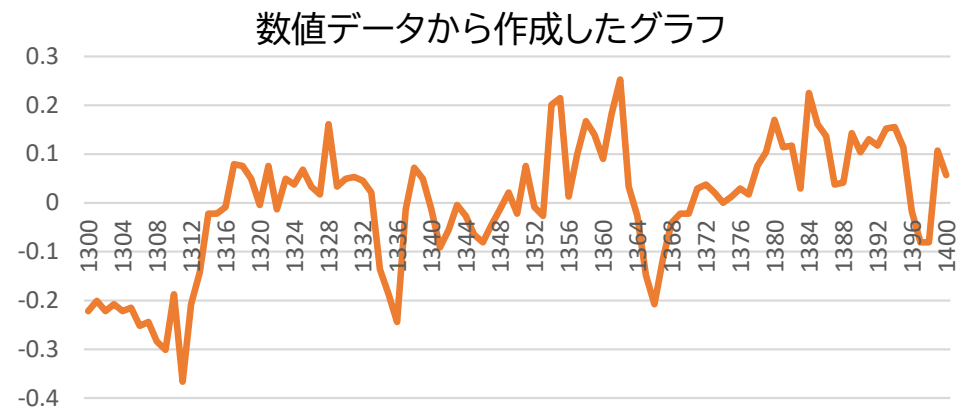
図IV-2 ヒノキの現生木による1100年から1400年までの暦年標準パターングラフ

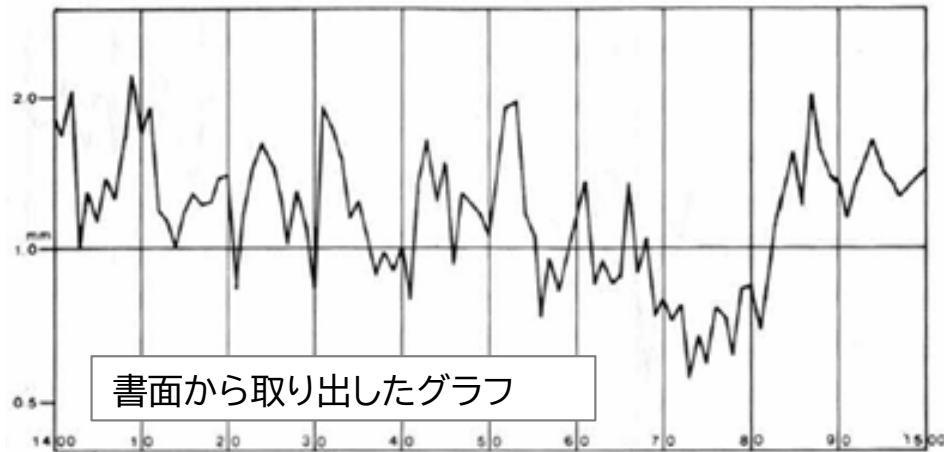
- 4/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1300年～1400年



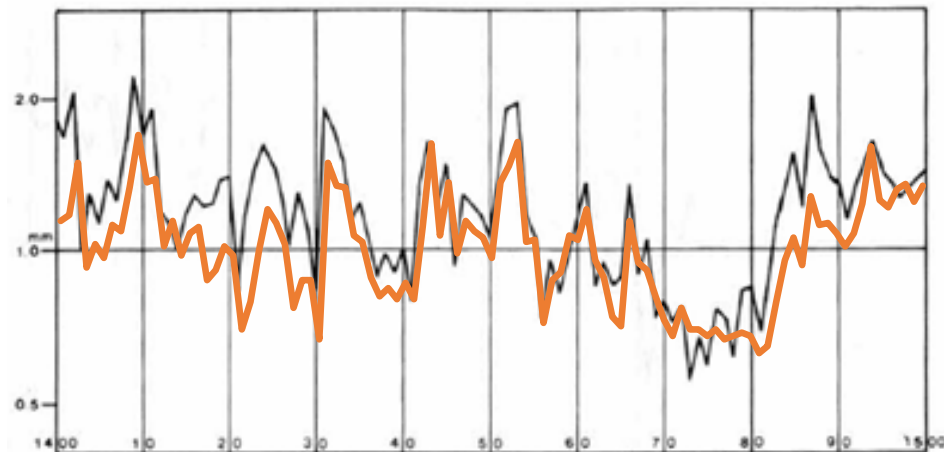
図IV-2 ヒノキの現生木による1100年から1400年までの暦年標準パターングラフ



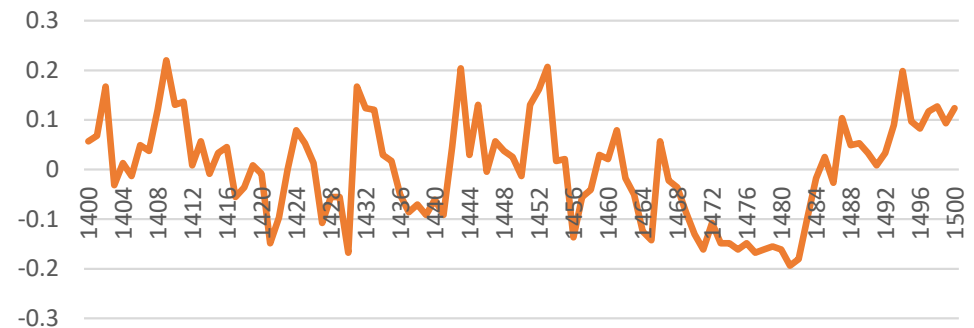


- 54/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1400年～1500年

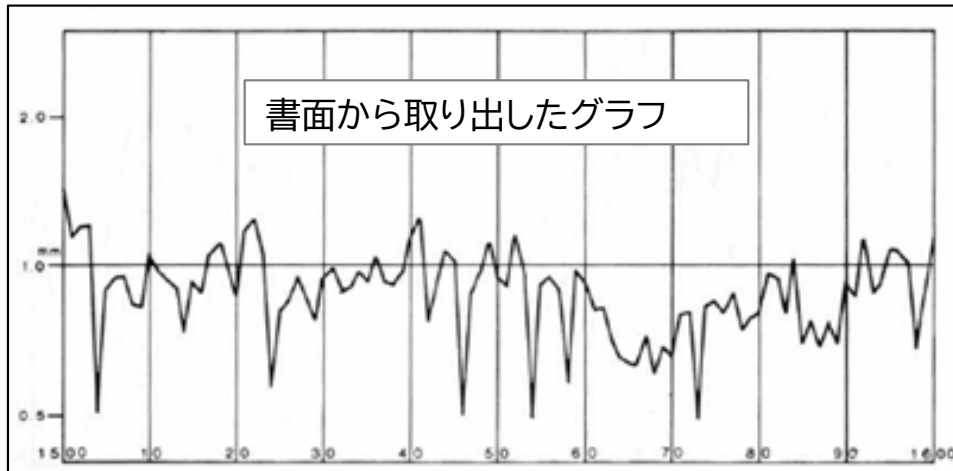


数値データから作成したグラフ



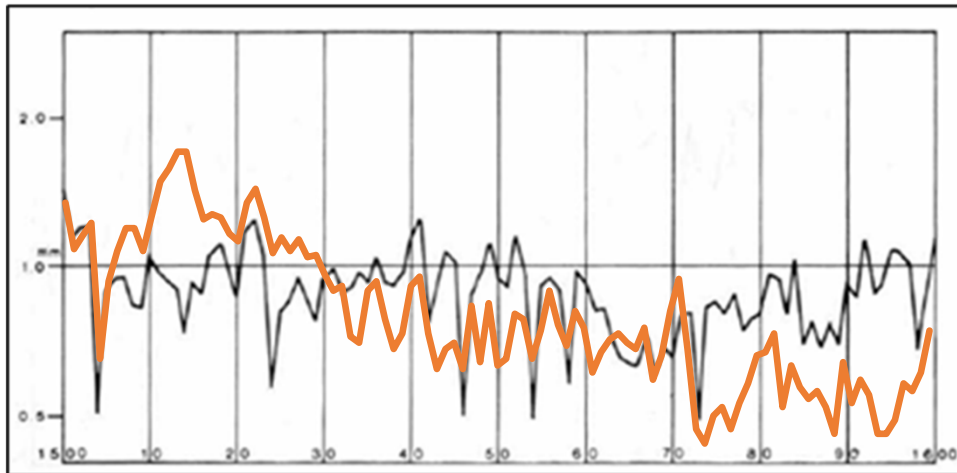


# 検証作業 ① ヒノキの暦年標準パターンA 6/10

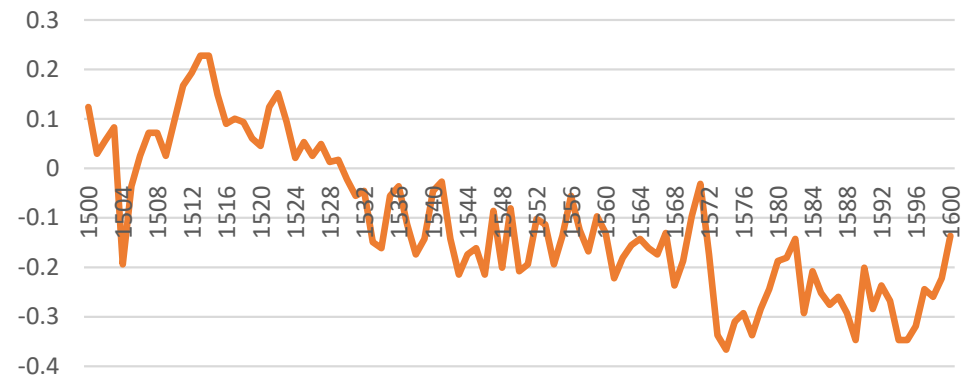


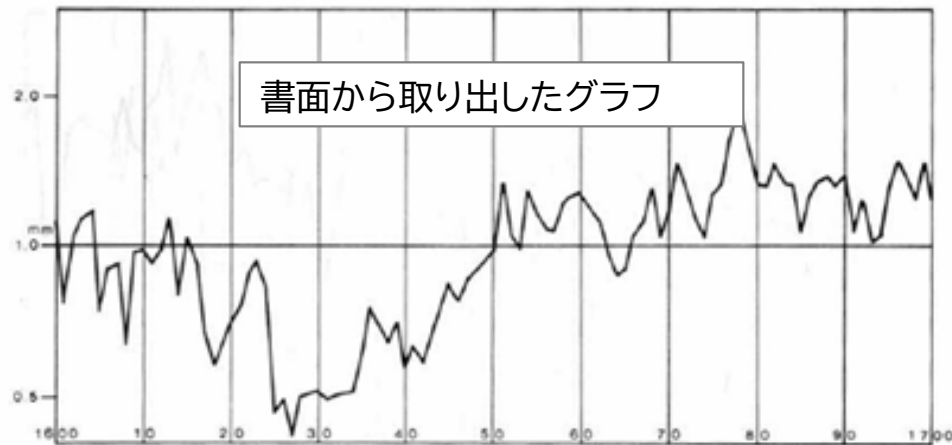
- 6/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1500年~1600年



数値データから作成したグラフ

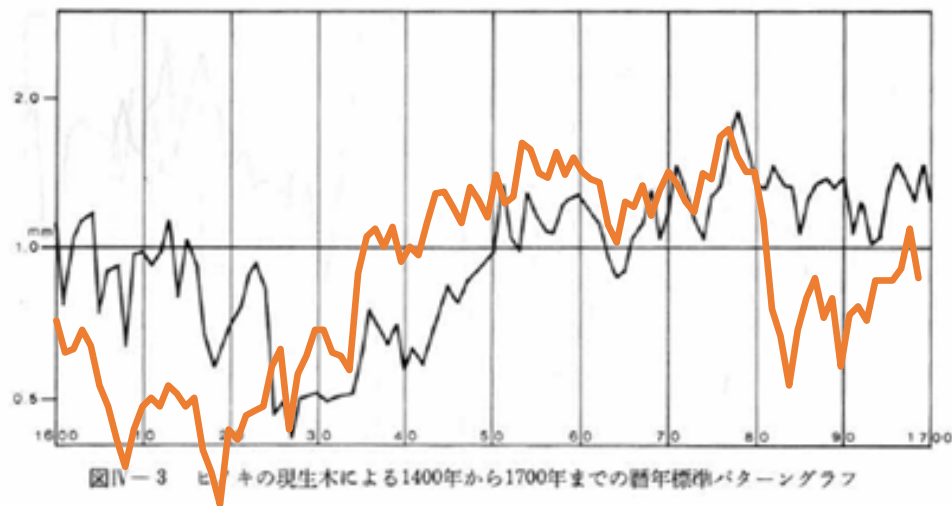




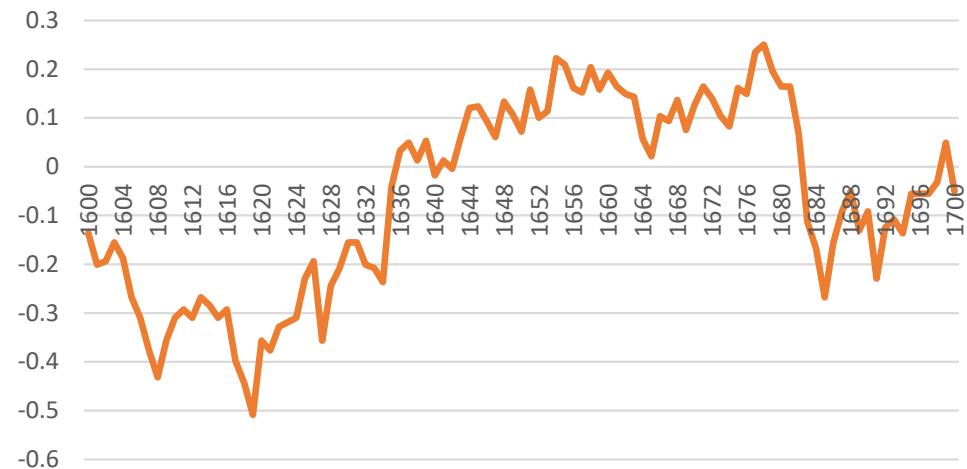
図IV-3 ヒノキの現生木による1400年から1700年までの暦年標準パターングラフ

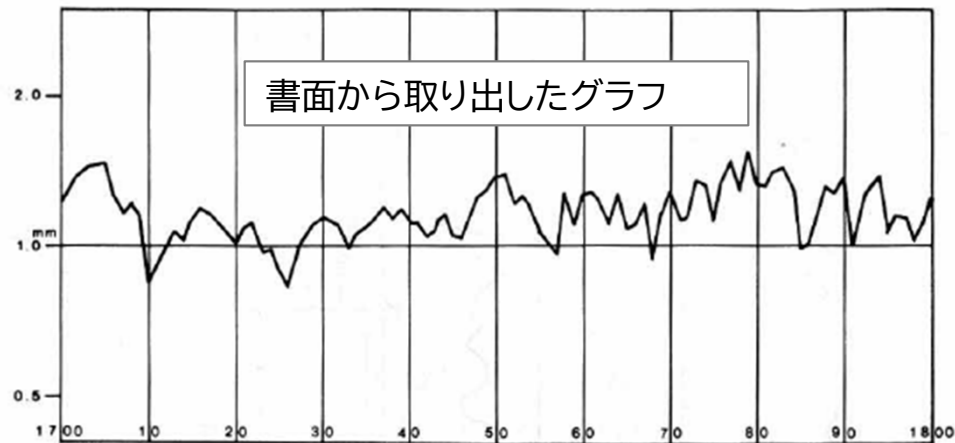
- 7/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1600年~1700年



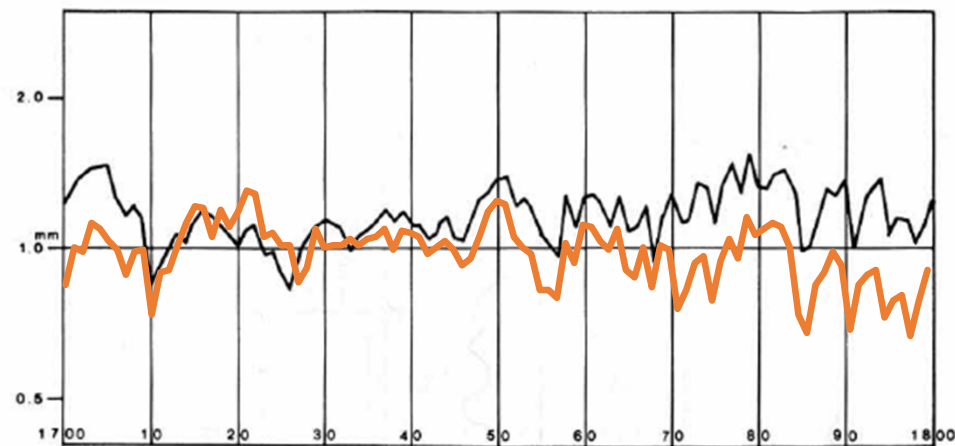
数値データから作成したグラフ



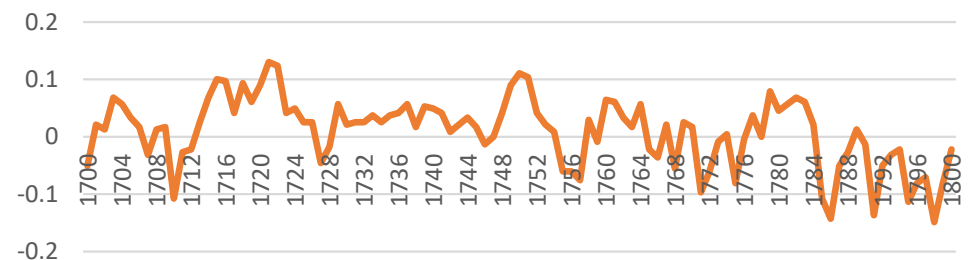


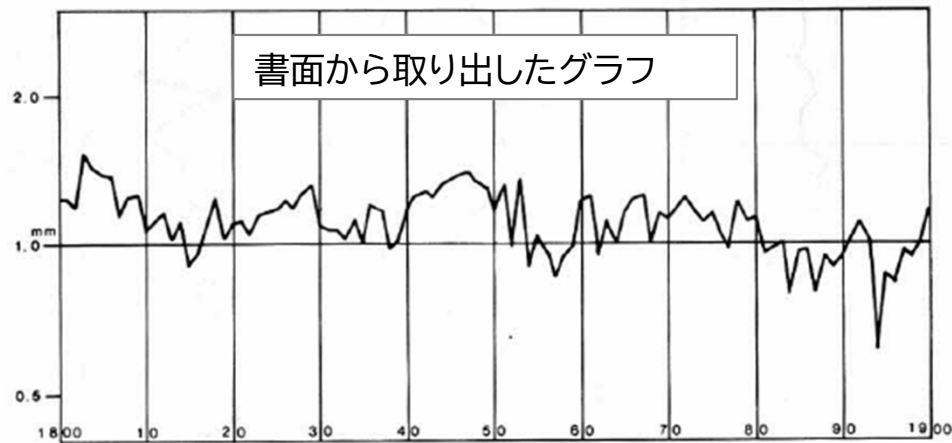
- 8/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1700年~1800年



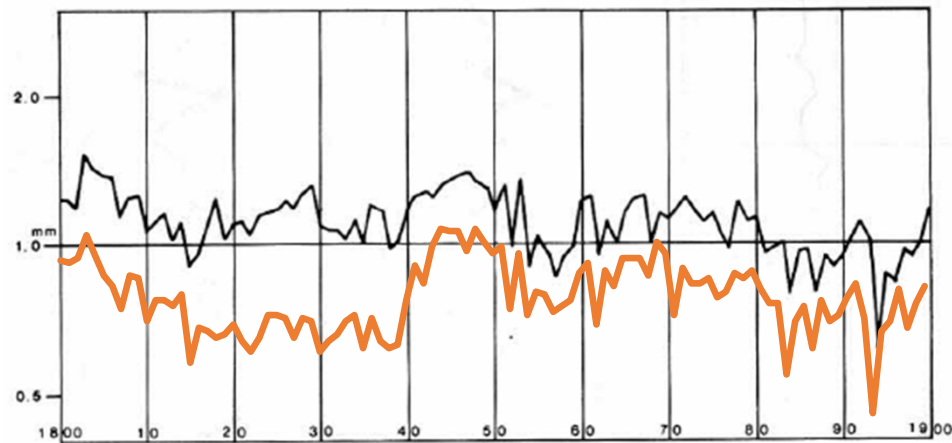
数値データから作成したグラフ



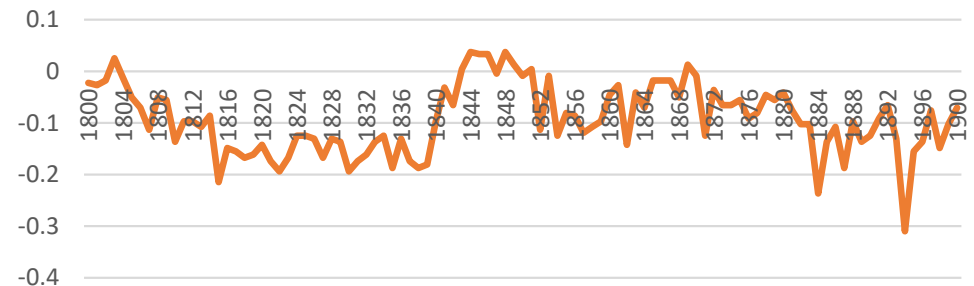


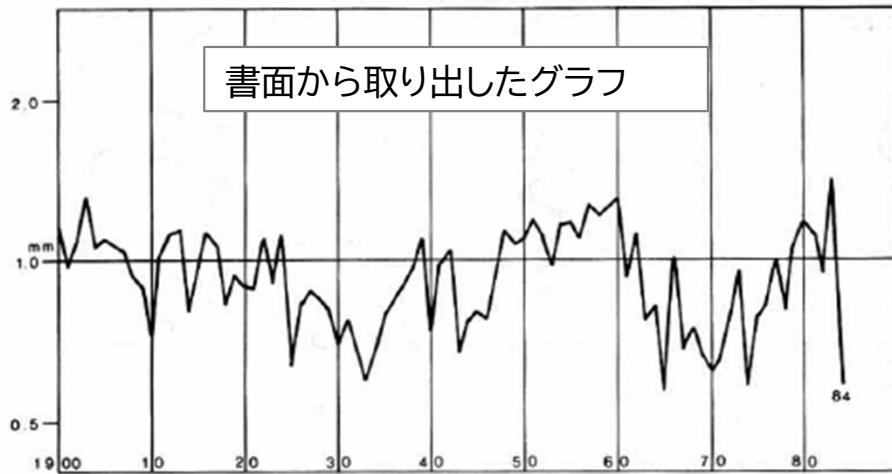
- 9/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

• 1800年~1900年



数値データから作成したグラフ

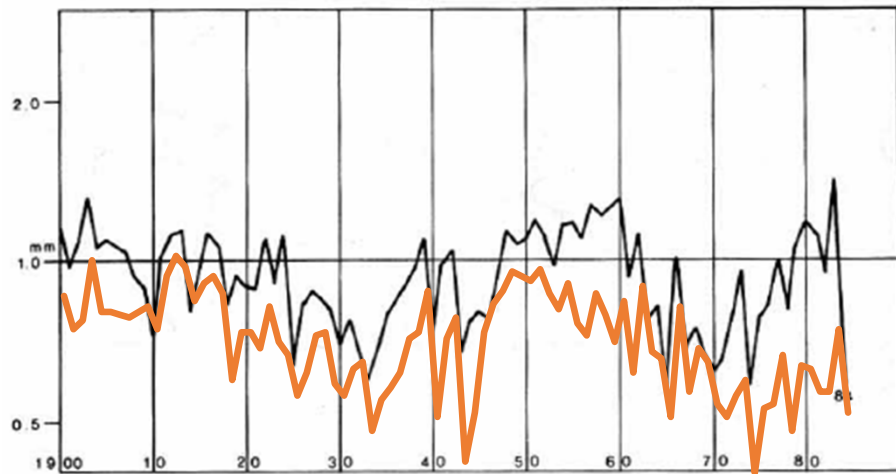




図Ⅳ-4 ヒノキの現生木による1700年から1984年までの暦年標準パターングラフ

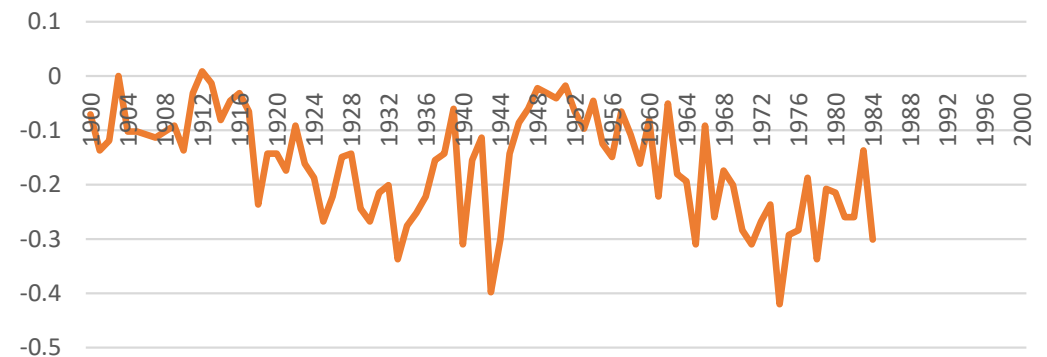
- 10/10でも同じ作業を実施。
- グラフは重ならない。

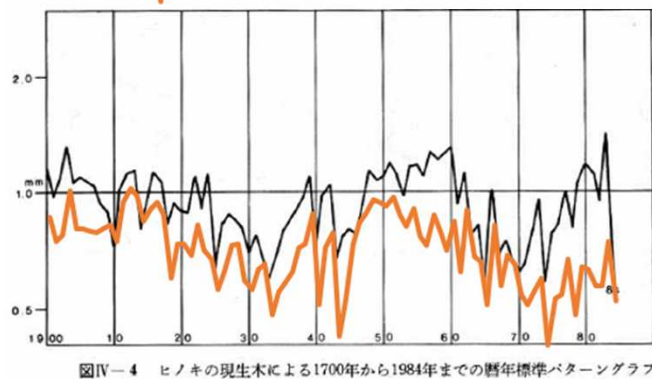
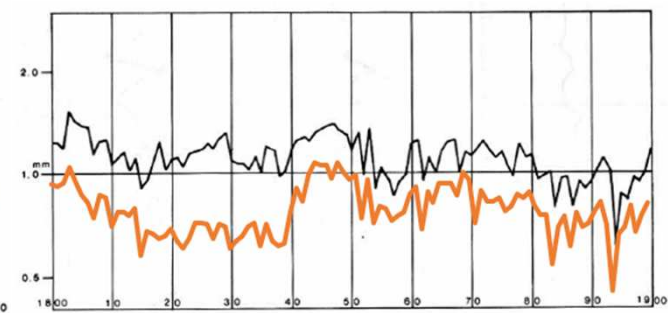
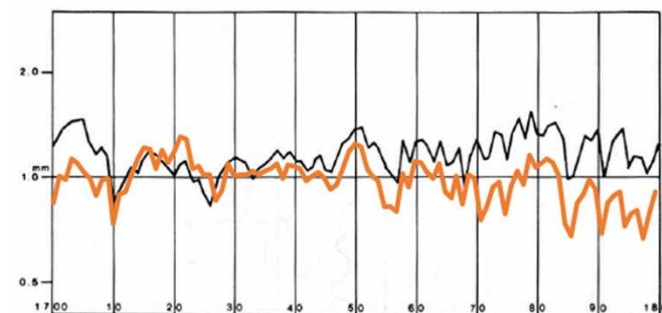
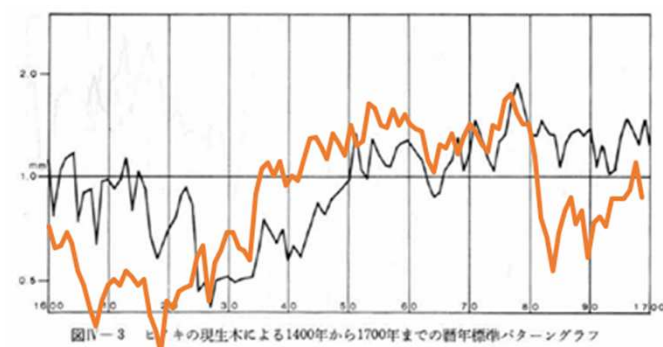
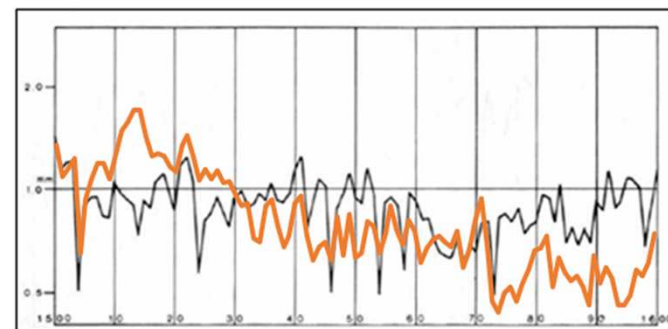
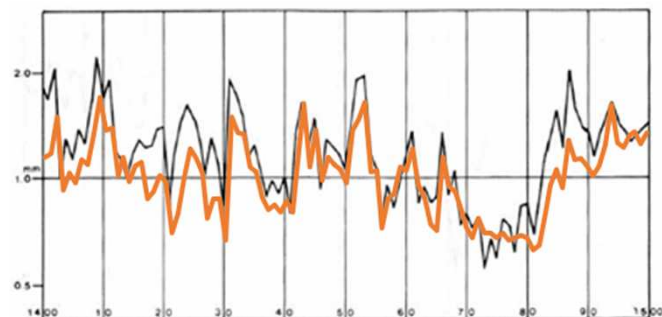
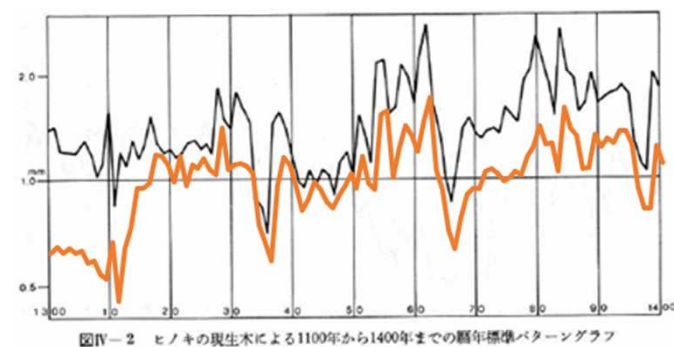
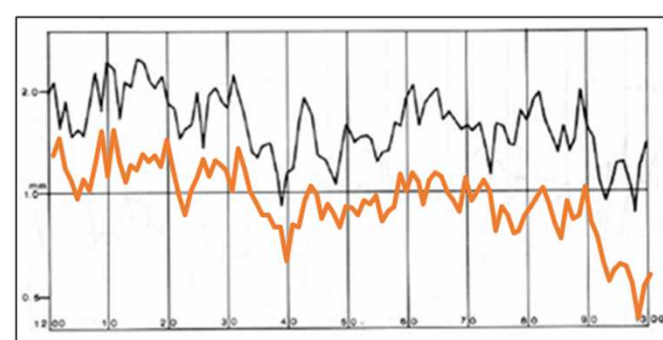
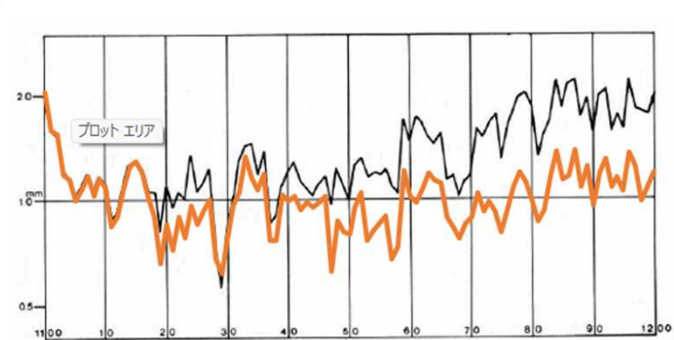
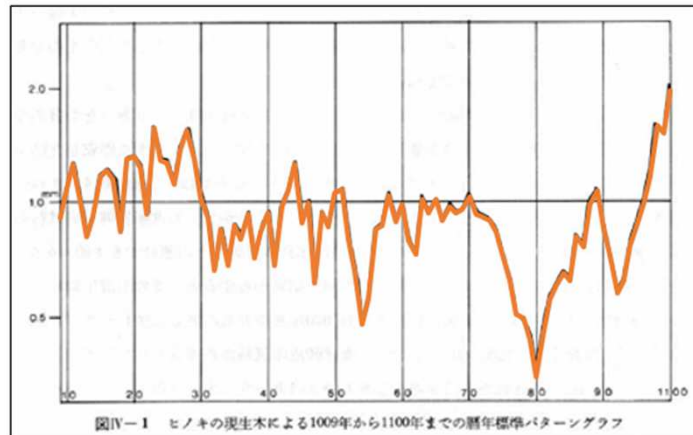
• 1900年～1984年



図Ⅳ-4 ヒノキの現生木による1700年から1984年までの暦年標準パターングラフ

数値データから作成したグラフ





ヒノキの暦年標準パターンA  
1009年から1984年までの全領域のグラフであるが  
始りの120年ほどは書籍のグラフと数値データのグラフは  
一致するが、それ以降のグラフは不一致となった。

## 検証作業 ① ヒノキの暦年標準パターンA

- 「年輪に歴史を読む」の10件のグラフについて開示データと比較・確認を行った。
  - 最初のグラフはほぼ一致するが、2枚目以降に関しては、明白な違いが存在することが判明した。
    - 作成に使用したサンプルの原木の本数は、同一。
      - 「年輪に歴史を読む」では63本
      - 開示されたデータでも63本
- 暦年標準パターンA に関しては、開示された数値データは、「年輪に歴史を読む」に記載されたものと異なるため、追検証を行う対象では無いと判断した。



## 2. 暦年標準パターンEと法隆寺五重塔心柱パターン

- 『日本の美術』421号「年輪年代法と文化財」(2001)の中に下記のグラフがある。

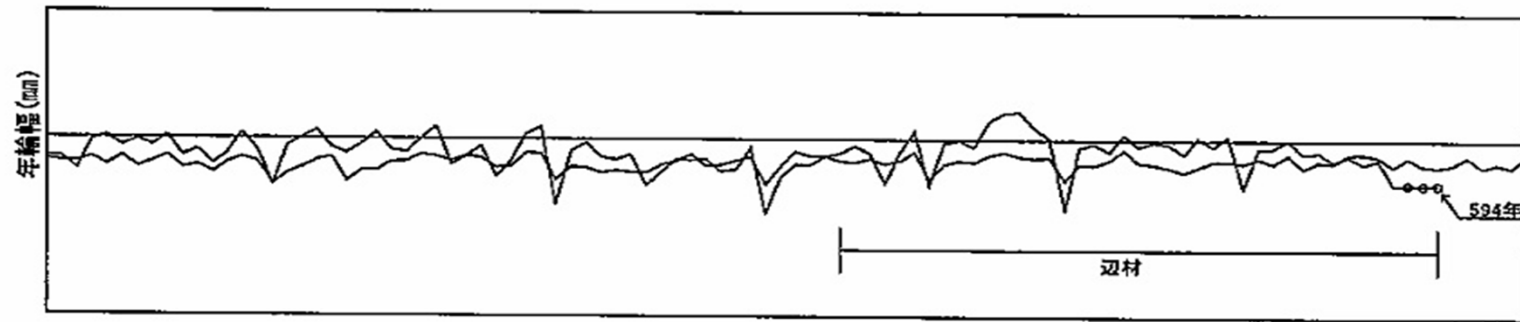
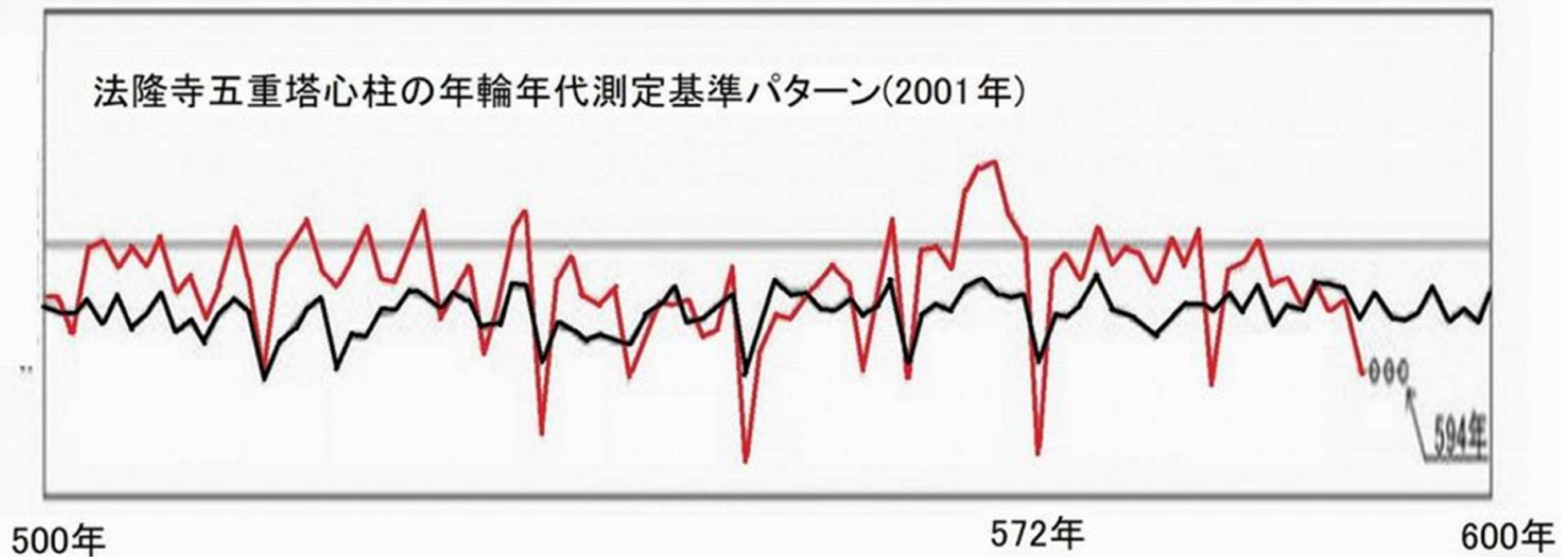
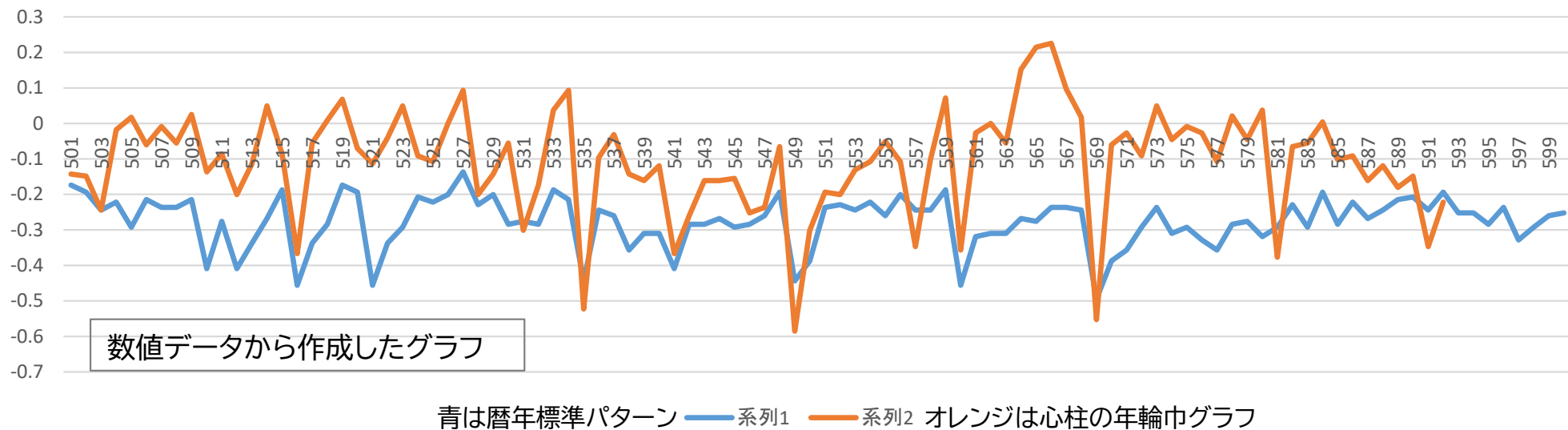
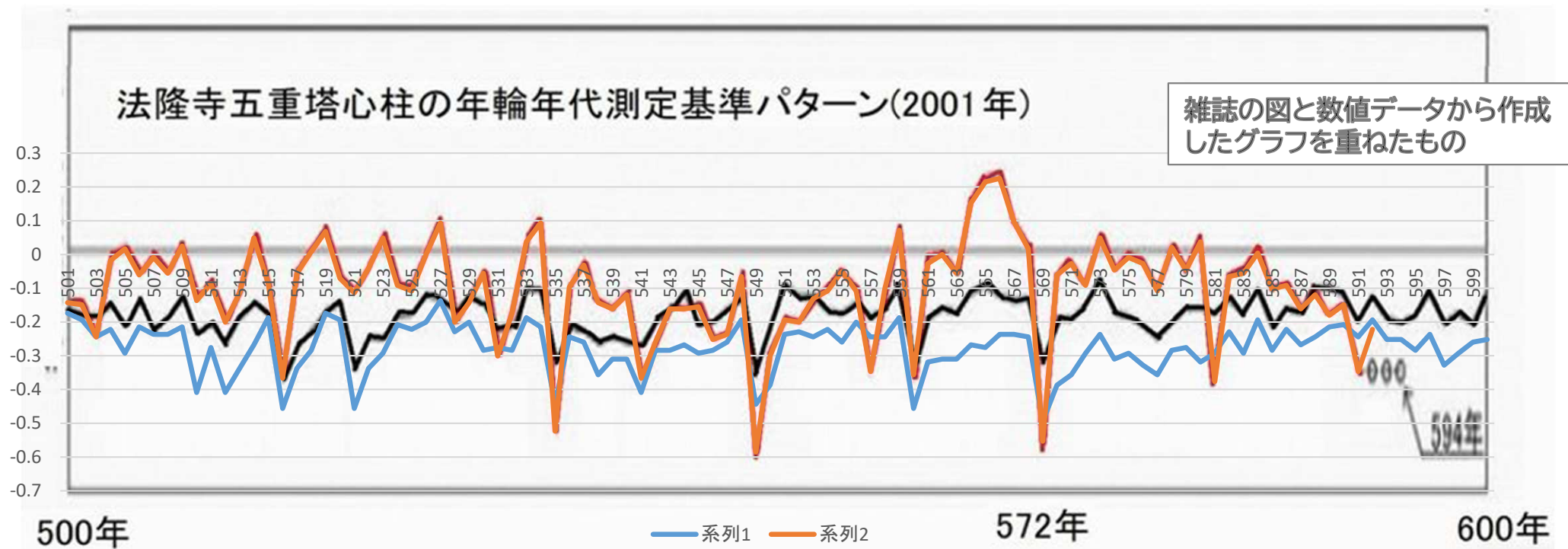


Fig. 189 ヒノキの暦年標準パターングラフ（実線）と心柱の年輪パターングラフ（破線）

- 新井宏氏の講演会資料中に、縦方向を拡大し、赤黒の線に変更したグラフがあり、元のグラフと対応が取れていることを確認し、そのグラフを使用し、検討を行う。（5./6./7.の事例についても同様。）



- ・ オレンジ線は数値データの心柱のもので下図の赤の心柱データと一致 → 赤線が重なってみることができない。
- ・ 黒線(上図)は、雑誌記事のパターンEのグラフ。
- ・ 青線(上図と下図)は、数値データのパターンEのグラフ。
  - パターンEは、雑誌記事と数値データでは異なる。



# 新たな疑問

- 法隆寺五重塔心柱
  - 「法隆寺五重塔心柱の円盤の履歴」
  - 著者: 小原 二郎 (千葉工業大学名誉教授)
  - 円盤の年輪巾を計測

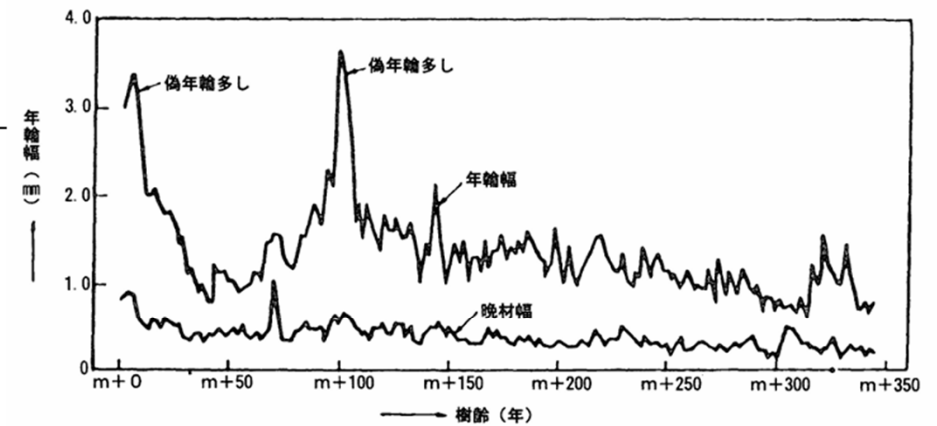


図4 心柱材の生長経過と晩材幅  
年輪の成長経過の中に二つの山があり、そこに偽年齢が認められる。

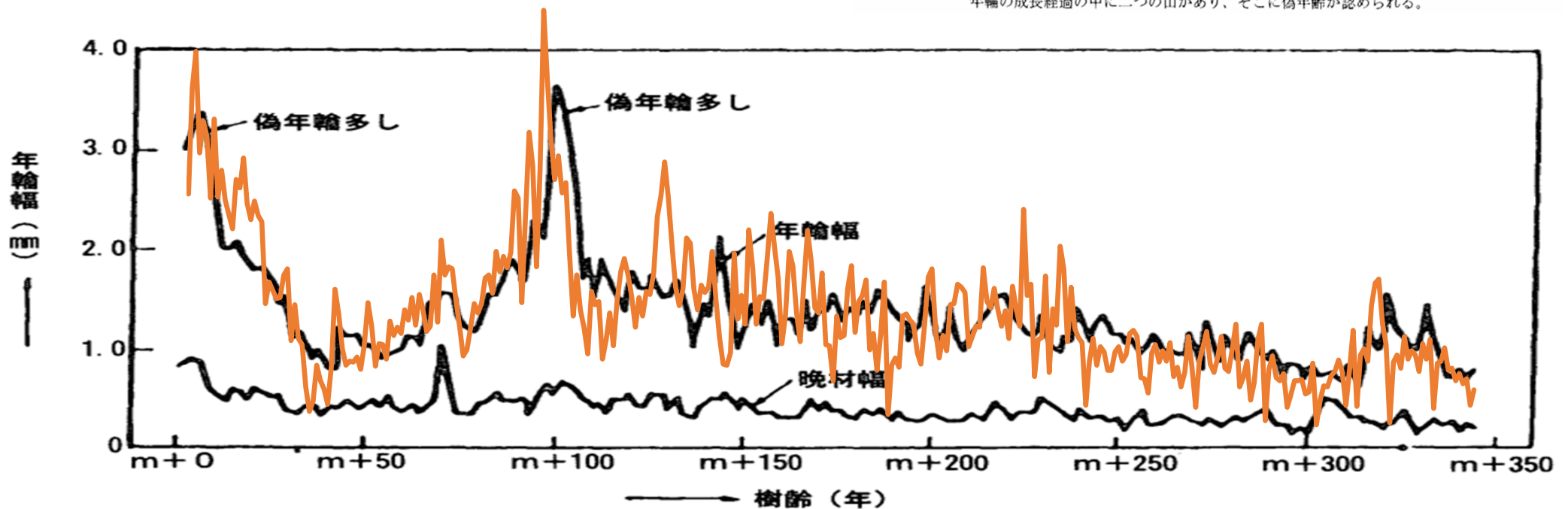


図4 心柱材の生長経過と晩材幅  
年輪の成長経過の中に二つの山があり、そこに偽年齢が認められる。

- 開示された年輪巾データと、小原二郎氏の測定したデータには、差異が存在することが判明。
  - 小原二郎氏の測定データは入手できていない。(小原氏は10年程前に死去されたとのこと。)

- 有名な計測結果で、注目される件です。
  - 心柱の年輪巾は、雑誌記事中のグラフと年輪巾数値データから作成したグラフが完全に一致し、数値データは、発表したものであることが判明した。
  - 暦年標準パターンは、雑誌記事のグラフとパターンEの数値データから作成したグラフを比べると、差異が存在する。
    - 暦年標準パターンEの数値データは、当初、発表されたものとは違い、追検証する意味が無い。
- 心柱の年輪巾については、別の方が光谷氏の年輪巾計測以前に、計測を実施している。  
小原 二郎（千葉工業大学名誉教授）の計測結果が発表された論文中のグラフと光谷氏の数値データから作成したグラフと比較することができる。
  - 比較した処、似ているが、違いは大きい。
  - グラフの図形の比較では、詳細は不明で、数値データでの比較が望まれる。
  - 大きな差異があり、光谷氏の年輪巾計測自体に疑念が生まれる。
  - 今後の調査・検討が望まれる。



## 3. 纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査結果

1989年6月実測

測定部材：ヒノキ板材  
 木取り：柂目板（斜）  
 計測年輪数：248層  
 残存辺材幅：2.0cm  
 残存最外年輪  
 測定年代：175年+2

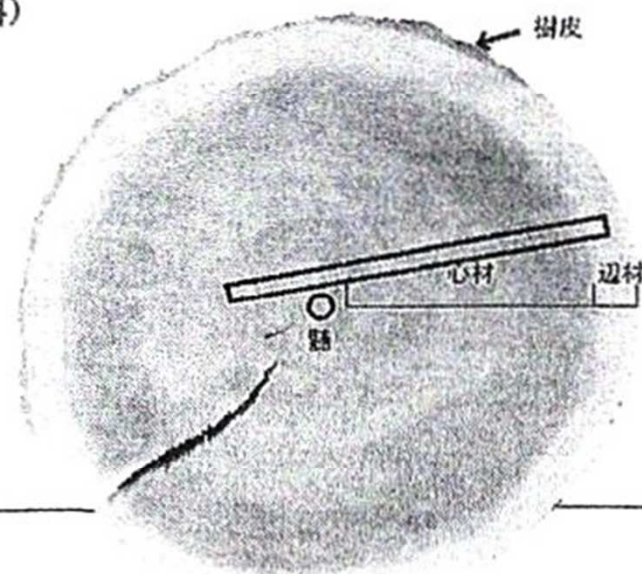


写真-1 板材の木取り

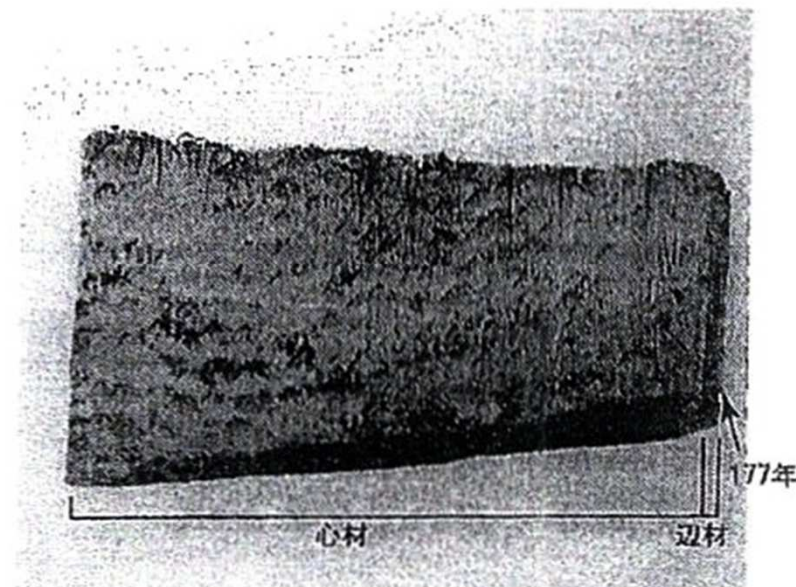
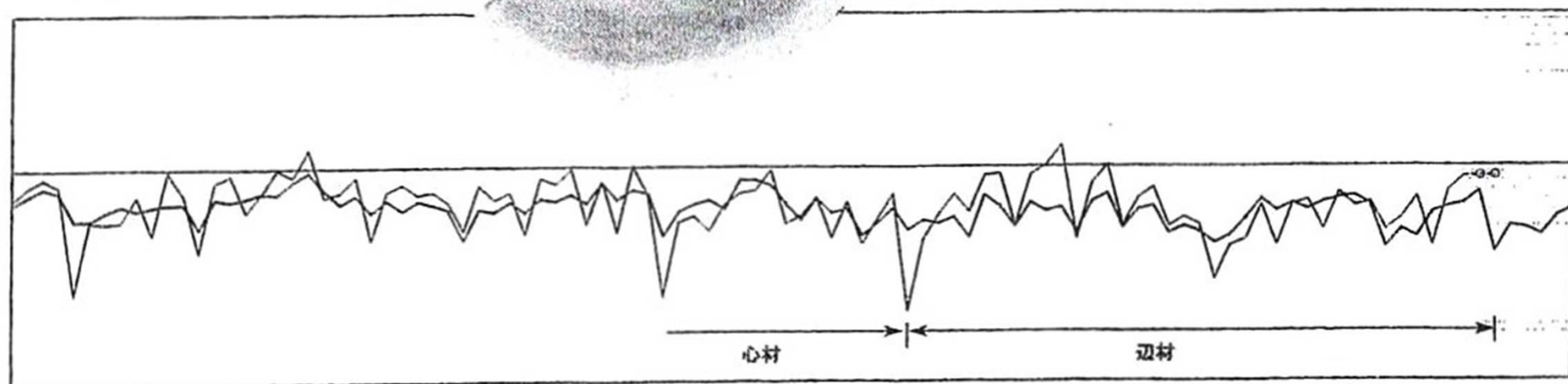
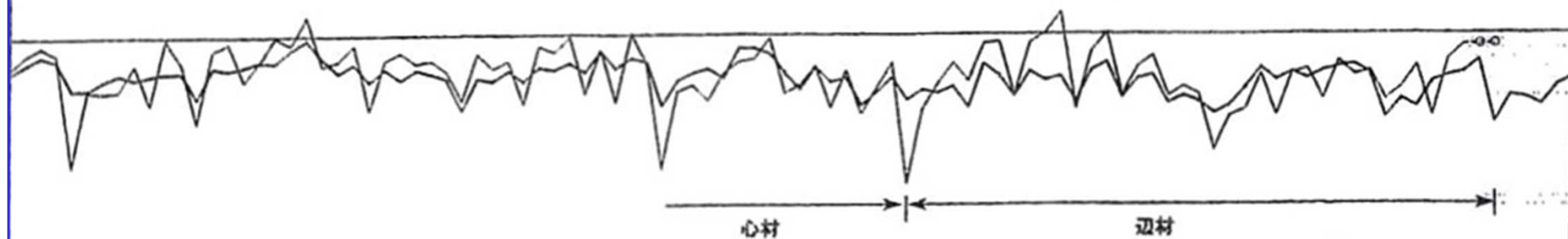


写真-2 板材

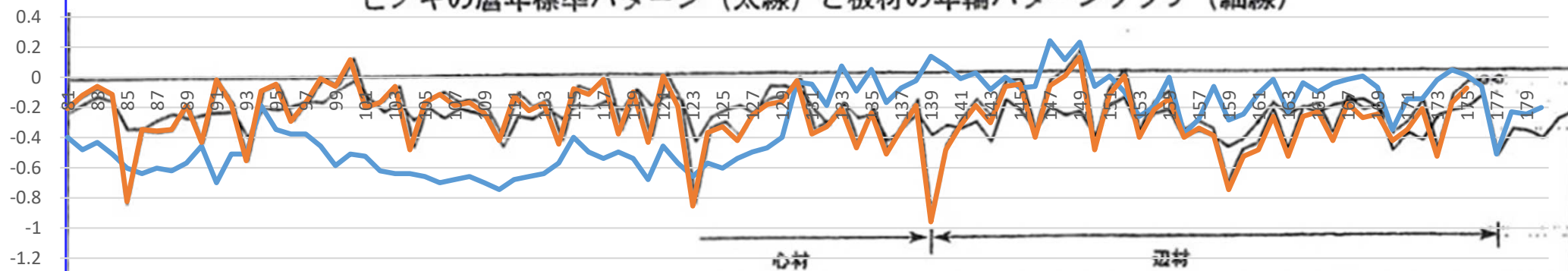


ヒノキの暦年標準パターン（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）

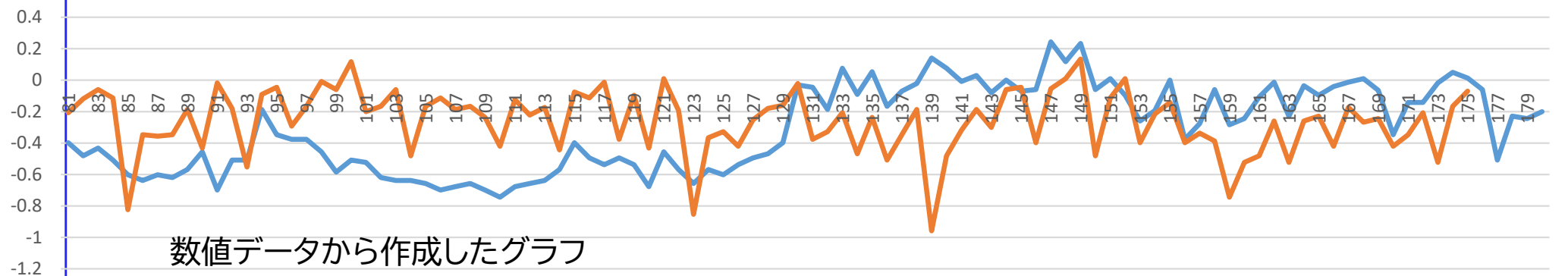
図107 纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査結果



ヒノキの暦年標準パターン（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）



ヒノキの暦年標準パターン（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）



### 3. 纏向石塚古墳出土板材の年輪年代

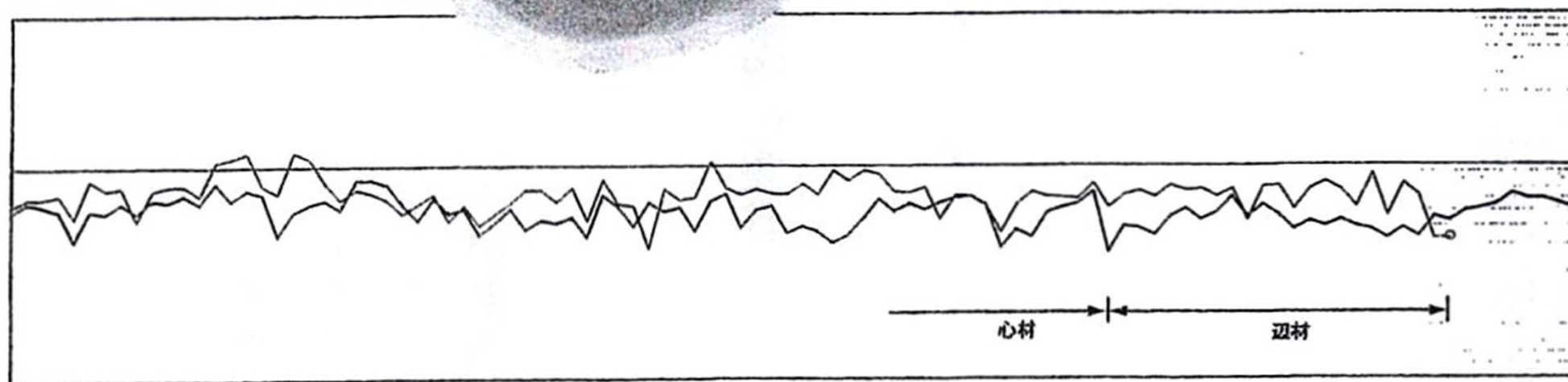
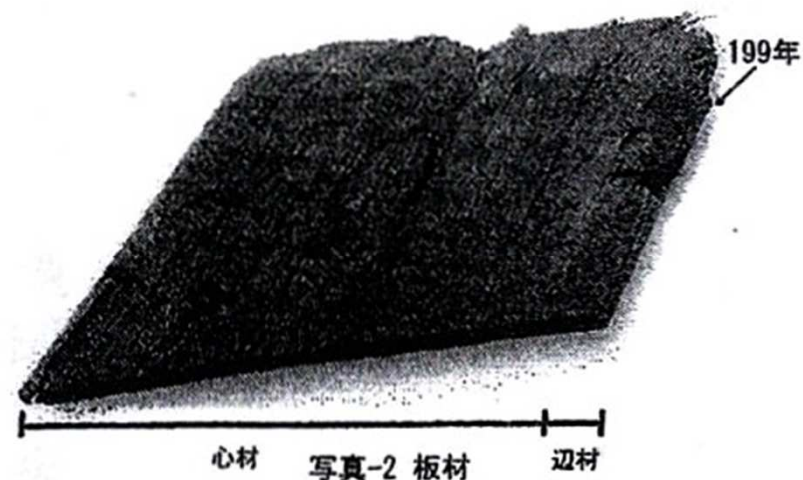
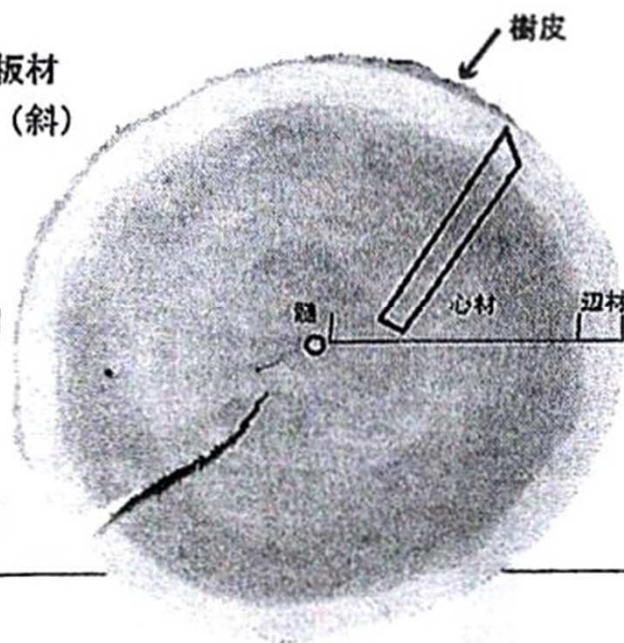
- 雑誌の記事に、測定の結果を示すグラフが掲載されている。
  - 板材の年輪巾グラフと、開示された数値データから作成したグラフを重ねてみた処、ピッタリと一致した。(紙の歪が若干あるが。)
  - 対比させたとされる暦年標準パターンEのグラフと、「補足」の数値データから作成したグラフを重ねたところ、明らかに差異が存在する。
- 開示された暦年標準パターンEは、雑誌記事とは別物であるため、追検証する意味が無い。
- 本来の目的は、奈文研・光谷氏が発表し、雑誌記事に示した暦年標準パターンで追検証を行うことで、違う暦年標準パターンと比べても意味が無い。



## 4.勝山池出土板材の年輪年代

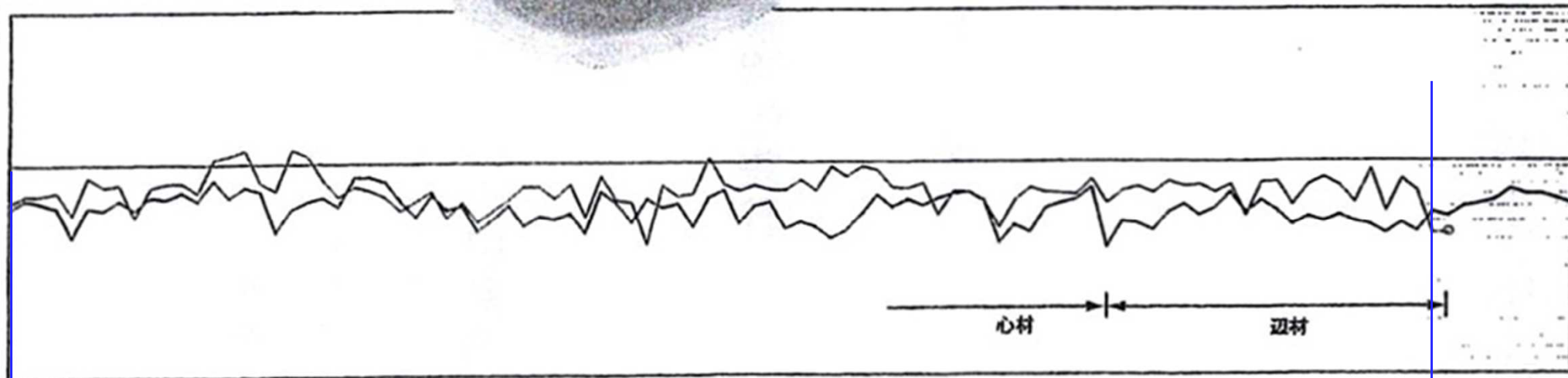
測定部材：ヒノキ板材  
 木取り：柾目板（斜）  
 計測年輪数：110層  
 残存辺材幅：2.9cm  
 残存最外年輪  
 測定年代：198年+1

写真-1 板材の木取り

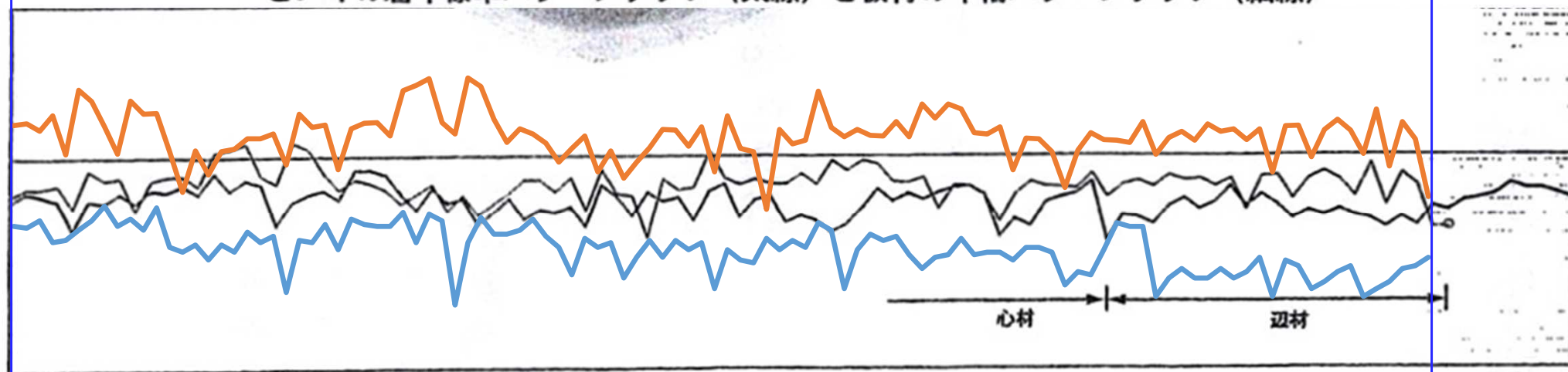


ヒノキの暦年標準パターングラフ（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）

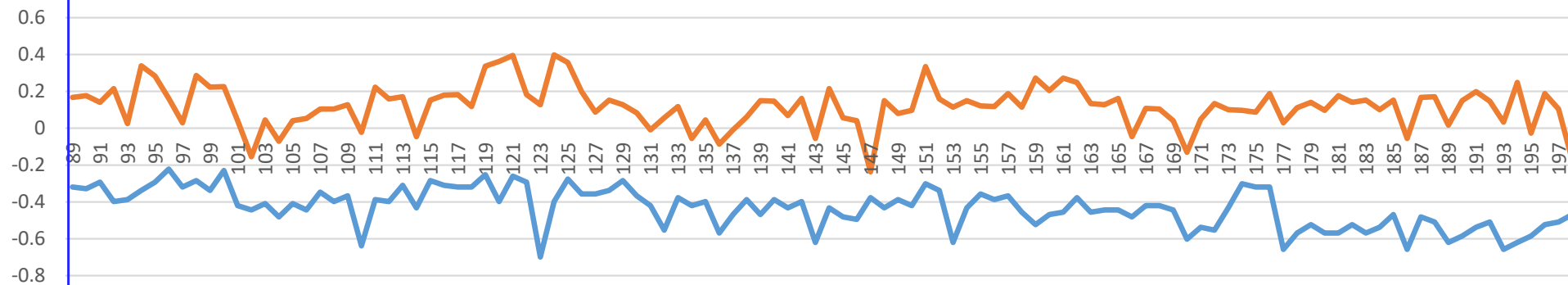
図106 勝山池出土板材の年輪年代調査結果



ヒノキの暦年標準パターングラフ（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）



ヒノキの暦年標準パターングラフ（太線）と板材の年輪パターングラフ（細線）

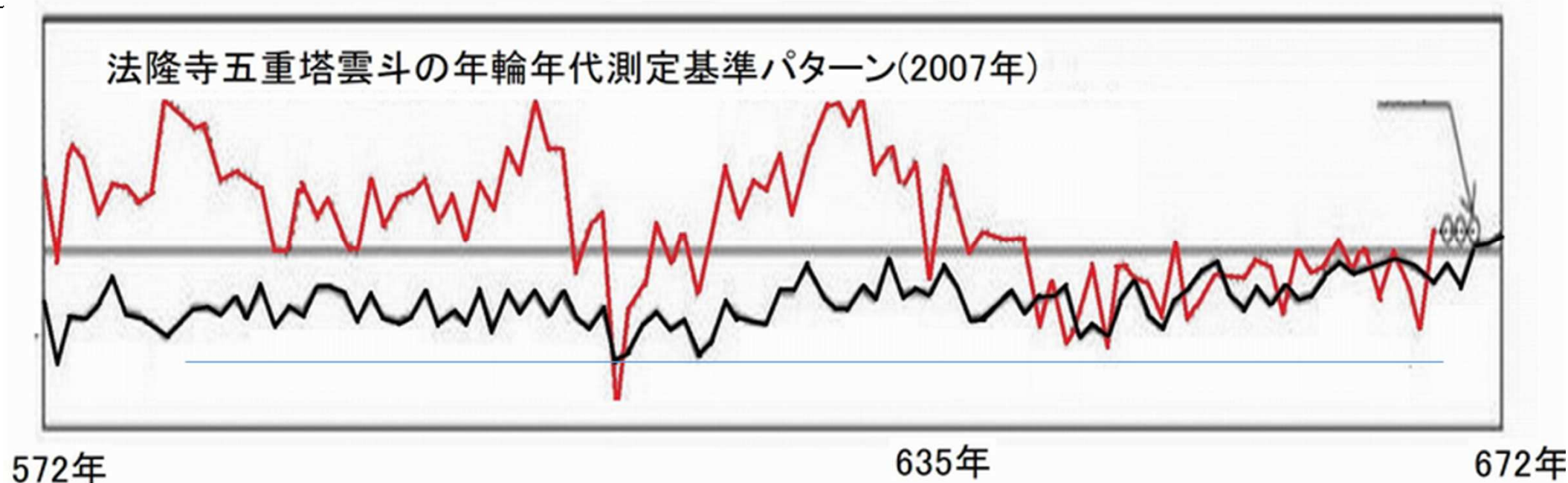


(青)暦年標準パターン 補足 系列1 系列2 勝山池出土板材(オレンジ)

## 4.勝山池出土板材の年輪年代調査結果

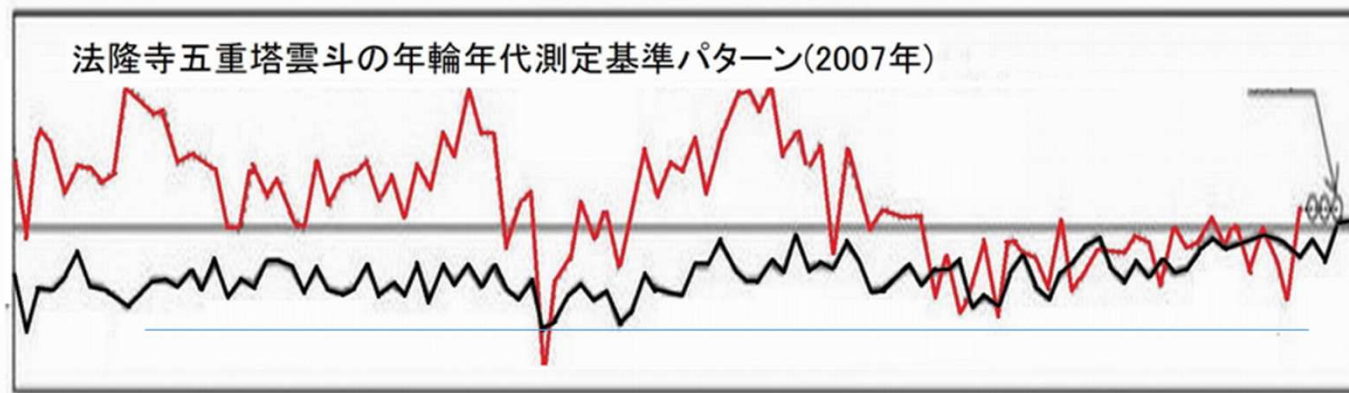
- 雑誌の記事中の測定の結果を示すグラフと、公開された年輪巾数値データから作成したグラフとは一致しない。
- ものさしとなる暦年標準パターンについても、記事中のグラフと「補足」のグラフは一致しない。
- 従って、発表された記事に掲載された測定対象物と暦年標準パターンの両方ともが、開示された数値データと異なるため、追検証することはできない。

## 5. 法隆寺五重塔雲斗(くもと)の年輪年代測定基準パターン(2007年)



- 重ねて比較したグラフは次の頁を参照下さい。
- 法隆寺五重塔雲斗の年輪巾数値データは、公開されていないため比較はできない。
- 光谷氏が発表した暦年標準パターンの中で、この対象時期をカバーするものとしては、D、E、木曽ヒノキのパターンがある。
- 暦年標準パターンE(青線)と木曽ヒノキ(オレンジ線)及びパターンD(灰色線)の数値データからグラフを作成し、重ねて比較したが、一致するものは、無かった。
- 法隆寺五重塔雲斗(くもと)の年輪年代測定測定に使用された暦年標準パターンは、いずれも、開示された数値データから作成したグラフと異なることが判明した。
  - 根拠不明のグラフと云える。

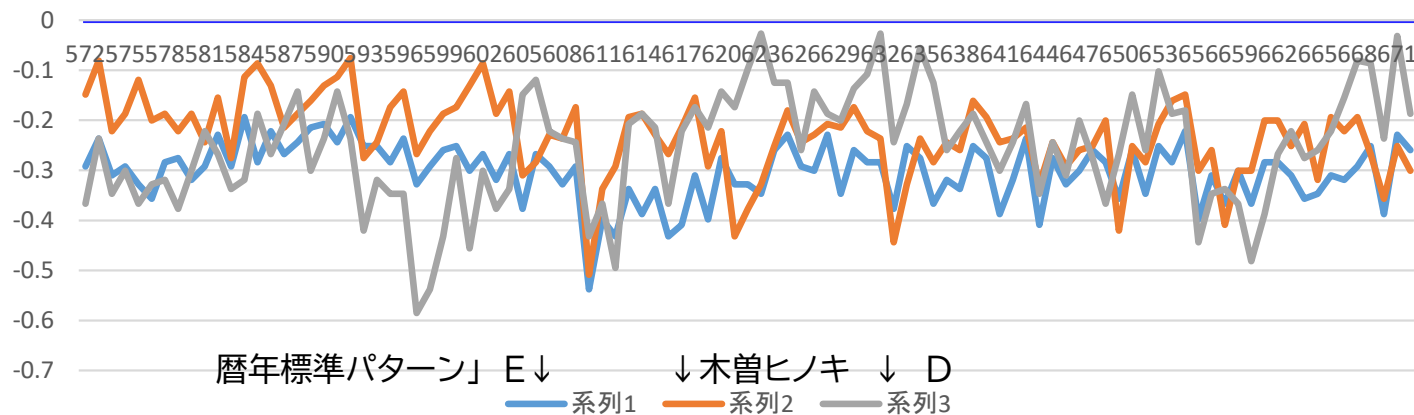
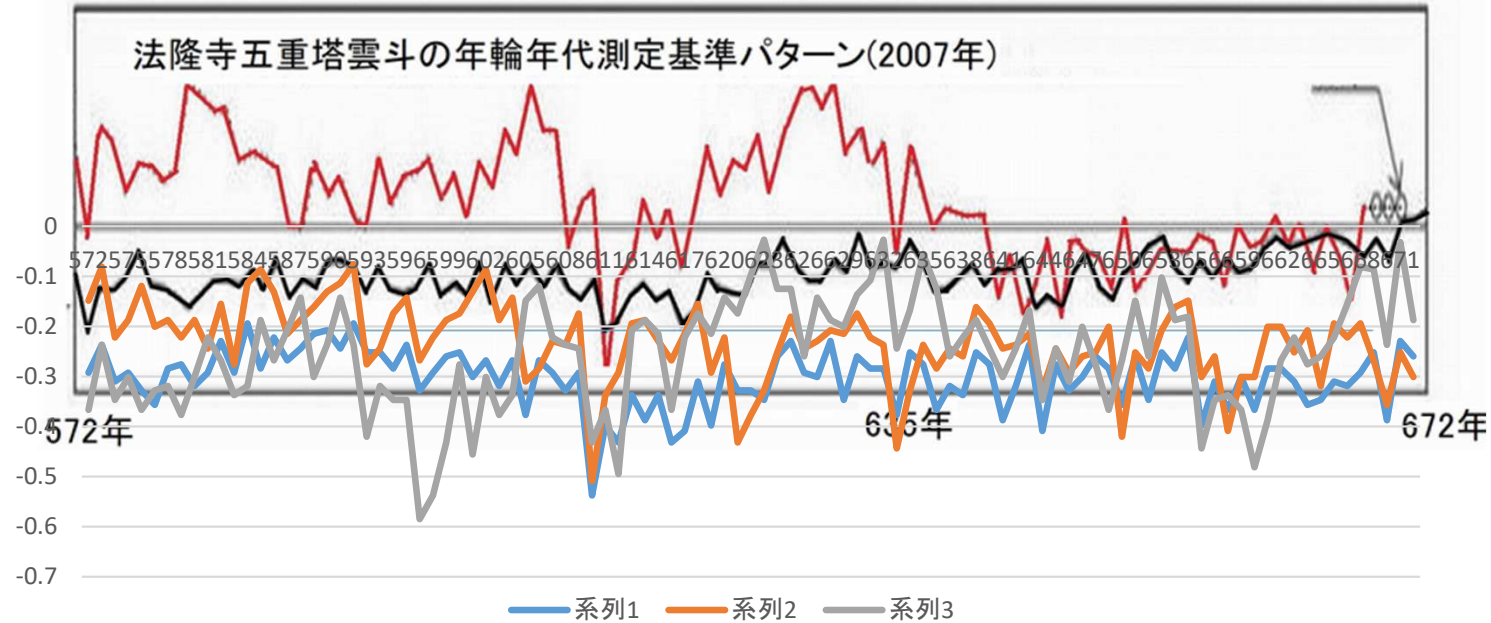




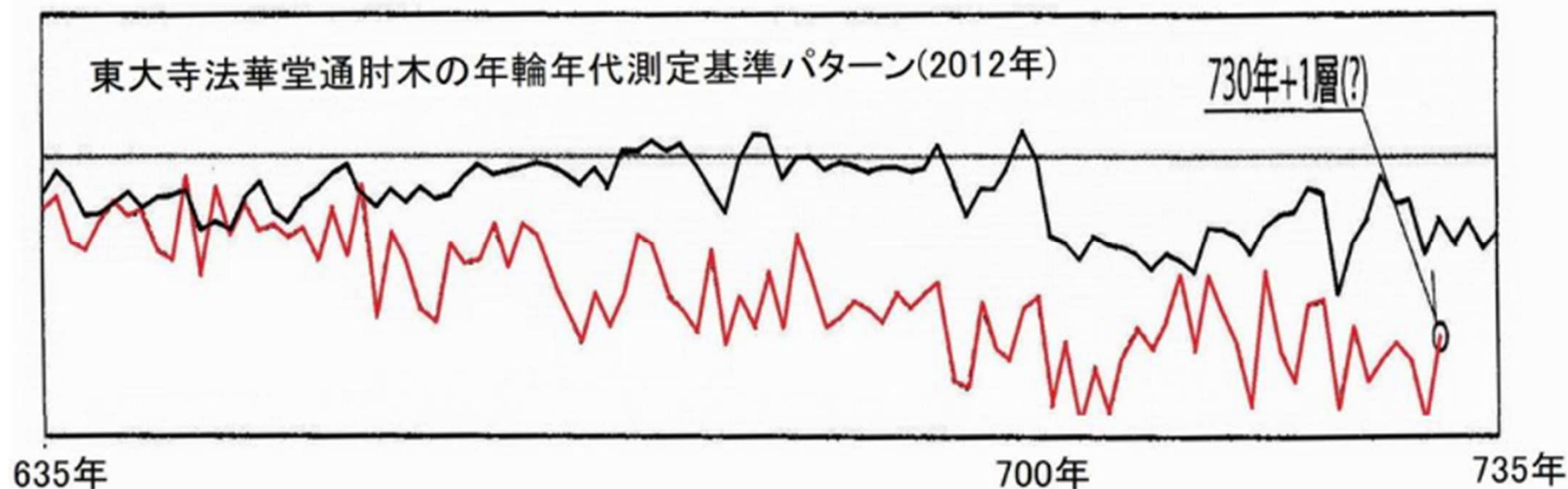
572年

635年

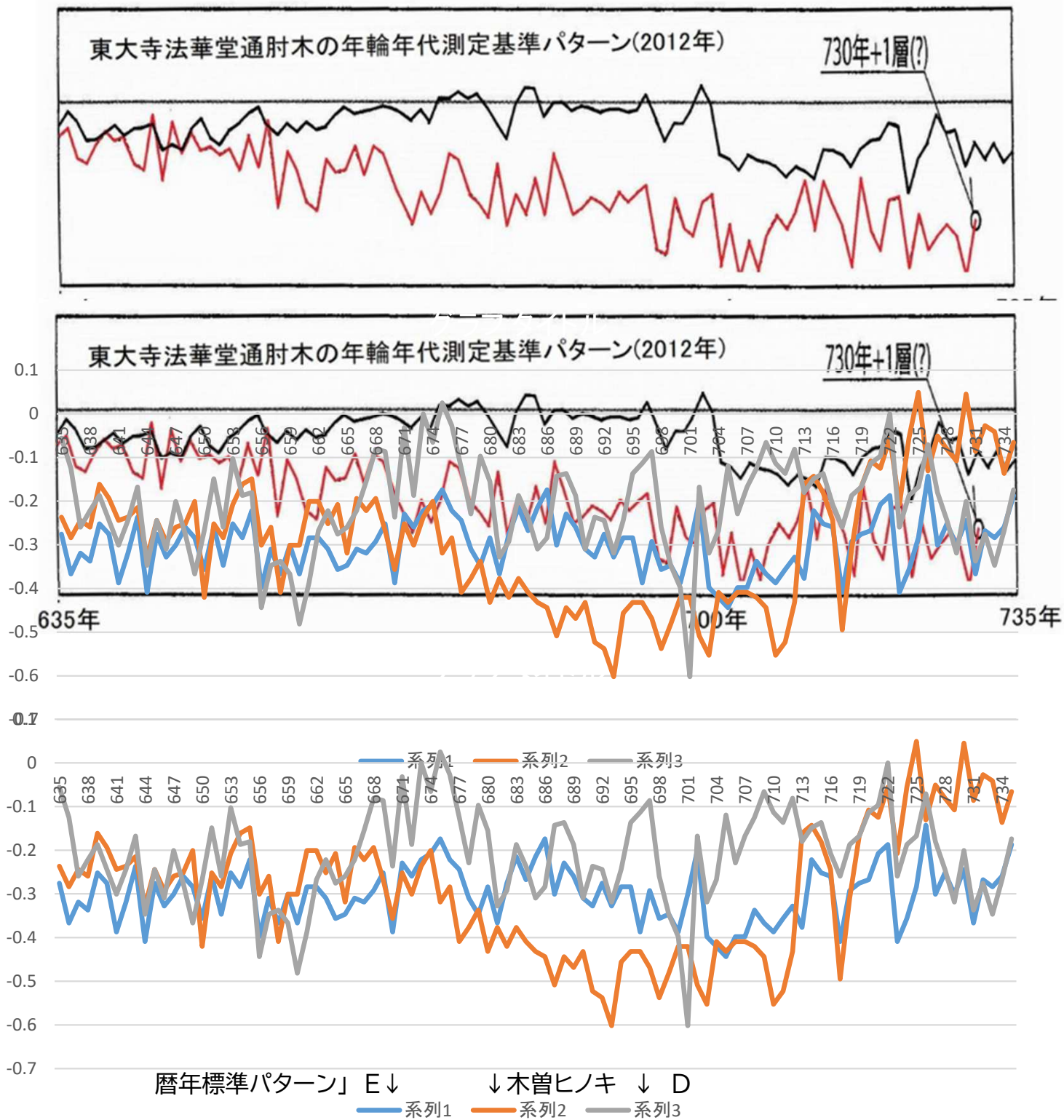
672年



## 6. 東大寺法華堂通肘木(とおしひじき)の年輪年代測定基準パターン(2012年)

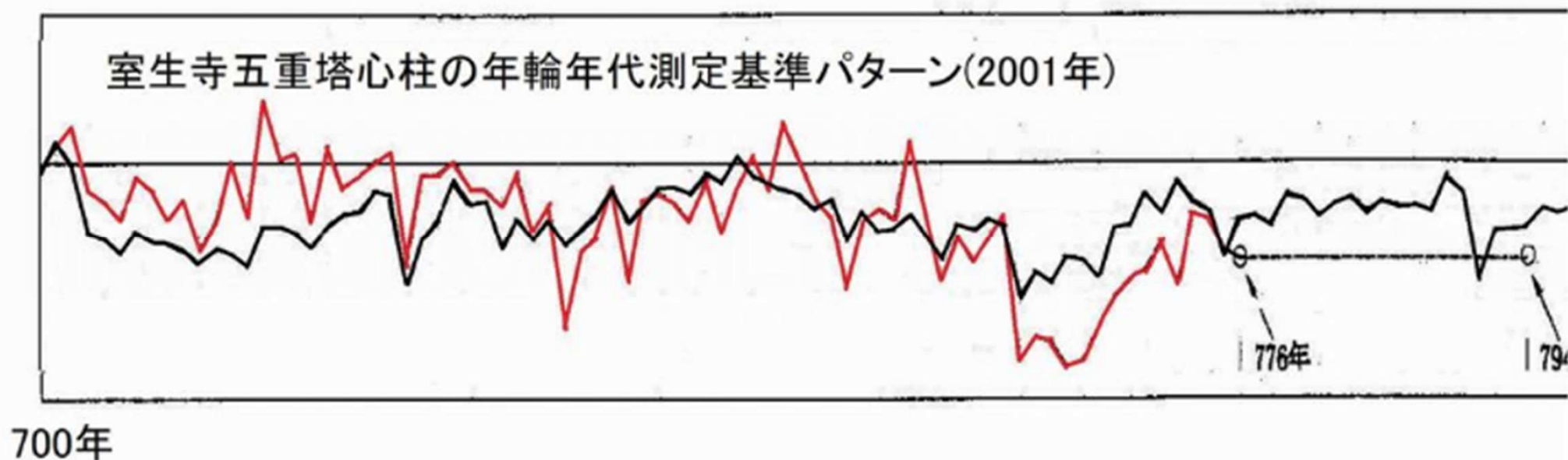


- 重ねて比較したグラフは次の頁を参照下さい。
- 東大寺法華堂通肘木の年輪巾数値データは、公開されていないため比較はできない。
- 光谷氏が発表した暦年標準パターンの中で、この対象時期をカバーするものとしては、D、E、木曽ヒノキのパターンがある。
- 暦年標準パターンE(青線)と木曽ヒノキ(オレンジ線)及びパターンD(灰色線)の数値データからグラフを作成し、重ねて比較したが、一致するものは、無かった。
- 東大寺法華堂通肘木の年輪年代測定測定に使用された暦年標準パターンは、いずれも、開示された数値データから作成したグラフと異なることが判明した。
  - 根拠不明のグラフと云える。

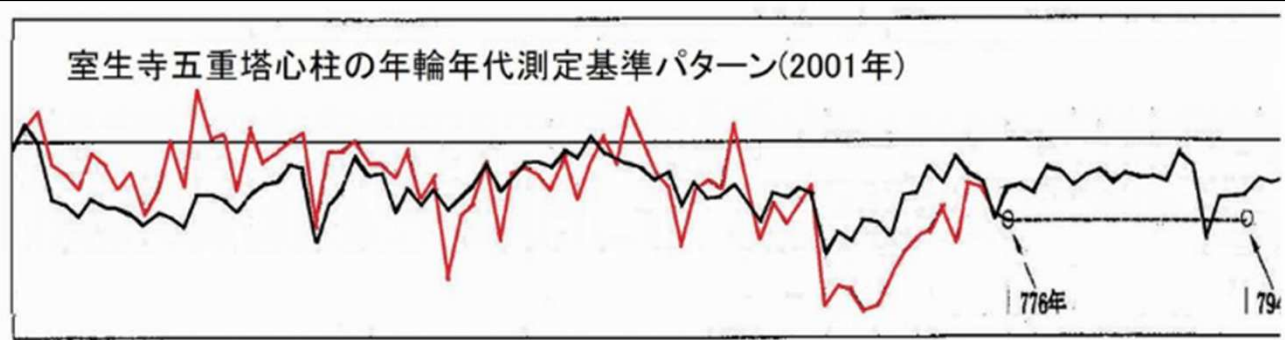




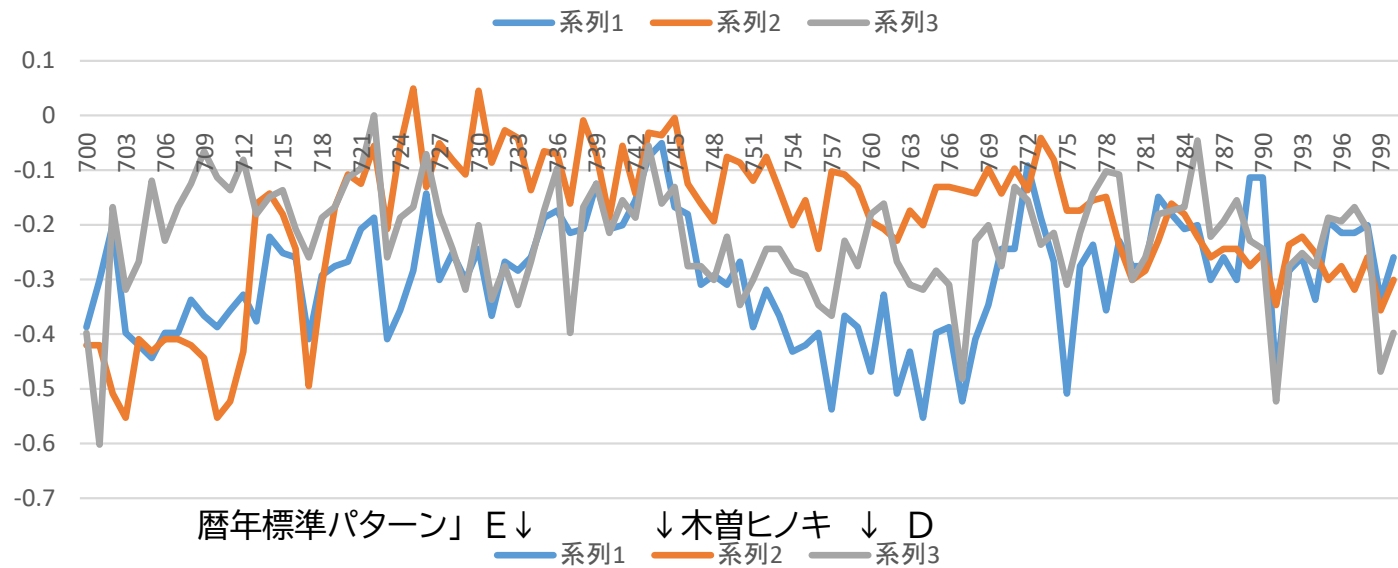
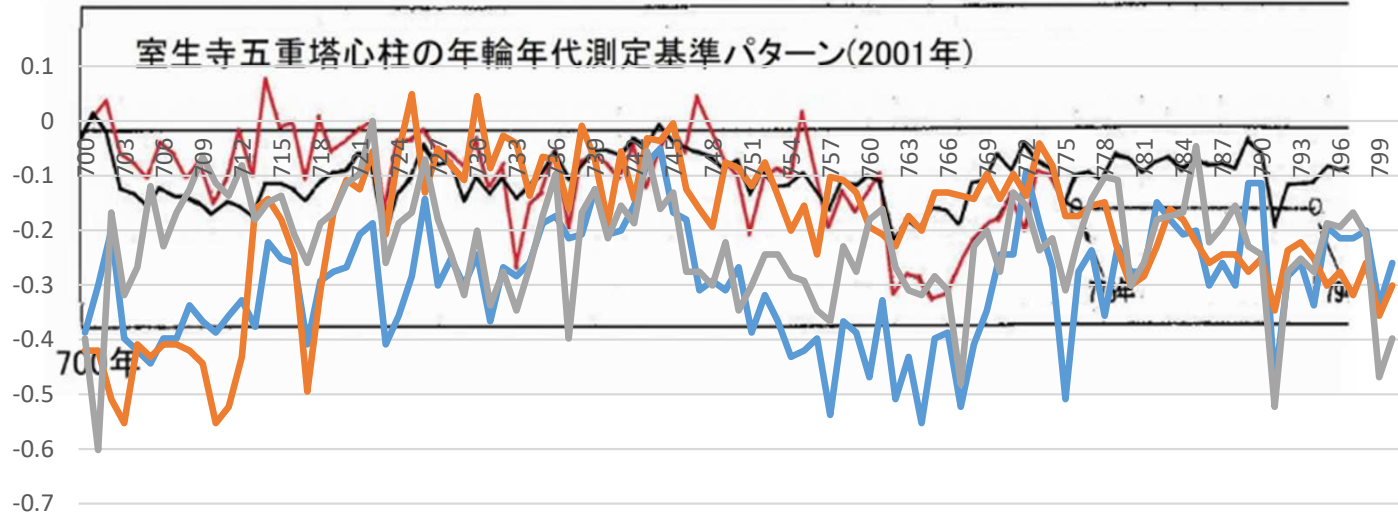
## 7. 室生寺五重塔心柱の年輪年代測定基準パターン(2001年)



- 重ねて比較したグラフは次の頁を参照下さい。
- 室生寺五重塔心柱の年輪巾数値データは、公開されていないため比較はできない。
- 光谷氏が発表した暦年標準パターンの中で、この対象時期をカバーするものとしては、D、E、木曽ヒノキのパターンがある。
- 暦年標準パターンE(青線)と木曽ヒノキ(オレンジ線)及びパターンD(灰色線)の数値データからグラフを作成し、重ねて比較したが、一致するものは、無かった。
- 室生寺五重塔心柱の年輪年代測定測定に使用された暦年標準パターンは、いずれも、開示された数値データから作成したグラフと異なることが判明した。
  - 根拠不明のグラフと云える。



700年



## 検証作業の結果

- 追検証の目的で開示請求を行い、データの開示を受けた。
- 開示されたデータが開示要求したものかの確認するため、書籍・雑誌記事中の図(グラフ)と開示された数値データから作成したグラフを比較した。 その結果：

		調査試料	暦年標準パターン
1	暦年標準パターンA		パターンA:書籍と不一致
2	法隆寺五重塔心柱	書籍と一致 / ∴	パターンE:書籍と不一致
3	纏向石塚板材	書籍と一致	パターンE:書籍と不一致
4	勝山池板材	書籍と不一致	パターン補足:書籍と不一致
5	法隆寺五重塔雲斗		パターンE/木曽/D: 書籍と不一致
6	東大寺法華堂通肘木		
7	室生寺五重塔心柱		
∴ 法隆寺五重塔心柱:光谷氏の年輪巾データは小原二郎氏の測定結果と相違			

- 調査試料の年輪データに関しては、2件が一致したが、1件は一致せず、暦年標準パターンに関しては、全件で不一致であった。
- 追検証の目的で公開要求し、公開された年輪データは、一部は書籍・記事と一致したが、それ以外は一致せず、追検証の対象とは云えない。
  - このグラフによる検討と判断が適切であるかについて、樹木年輪研究会の皆様からのご意見をいただきたい。
  - 今後、奈文研側のご意見をお伺いする予定。